

講義科目名称： 教育原理

授業コード：

英文科目名称： Principles of Education

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	教職科目
担当教員			
照屋 信治			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC102		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 教育の理念や基本的な概念の発生を歴史的展開の中で理解し、現代の教育課題を読み説く際の指針として活用する。 【到達目標】 1) 教育学の諸概念ならびに教育の本質及び目標を理解している。 2) 教育を成り立たせる子ども、教員及び課程等の相互関係を理解している。 3) 課程及び社会による教育の歴史を理解している。 4) 近代教育制度の成立及び展開を理解している。 5) 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。 6) 課程及び子どもに関わる教育の思想を理解している。 7) 学校及び学習に関わる教育の思想を理解している。 8) 代表的な教育化の思想を理解している。
授業の概要	近現代日本の学校教育の歴史を学び、そこから生まれてきた教育の理念や基本的な概念を学ぶ。それと同時に現代日本の教育現場の諸問題を検討しながら、そこに教育の理念や基本的な概念を確認してゆく。具体的には近代日本の歴史を概観し、自由と統制、個性と平等といった問題を検討する。また、学校現場の諸課題として、小学校英語教育、習熟度別授業、アクティブラーニング、「生命に対する畏敬の念」、障害を持つ生徒の教育権、いじめ問題、学級崩壊、ゼロトレランスなどの問題を検討する。
授業計画	第1回 講義概要説明、構成的エンカウンターの体験、理想の教育・教師について 教育原理とは、何を学ぶのか、講義計画、評価の方法、心構えの確認。その後、「理想の教師」というテーマで学生間の意見交換を行う。 【事前学習】「理想の教師」というテーマを400字程度でまとめる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第2回 カリキュラム編成の歴史と理論（デュイ、ブルーナー、学びの理論） 児童中心主義カリキュラム（デュイ）、教科中心主義カリキュラム（ブルーナー）の成立過程とその思想について学ぶ。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第3回 近代日本の学校教育の歴史①（明治期、教育勅語への道、国民皆学という考え方） 1872年の学制から1890年の教育勅語体制の成立までの近代学校制度確立までの歴史を学ぶ。歴史に埋もれた自由教育の可能性を掘り起こす。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第4回 近代日本の学校教育の歴史②（大正自由教育、教育の平等と個性に応じた教育） 大正自由教育を及川平治と木下竹次の実践と思想を検討しながら学ぶ。特に両者の能力観と学習班の作り方を検討し、教育の平等と能力別教育とについて検討する。また、大正自由教育の流れをくむ現代の学校を取り上げ、その可能性を考える。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。また、きのくに子どもの村学園について3つ以上の文献で調べ、2000字程度のレポートを作成する。30時間ほどの学修時間を必要とする。 第5回 現代日本の学校教育の歴史①（戦後教育改革、『山びこ学校』、民主主義と教育、教育基本法） 戦後教育改革から無着成恭の『山びこ学校』までの解説する。本当の民主教育とはどのようなものかを考える。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第6回 現代日本の学校教育の歴史②（教育内容の現代化） 日本における教育内容の現代化について学ぶ。水道方式、仮説実験授業を学ぶ。仮説実験授業の体験も行う。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第7回 学習指導要領について（その歴史、2008年の改正と学力論争） 当初、2008年の学習指導要領の改正とその前提となる学力論争を解説する。PISAテスト、ゆとり教育について、議論する。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第8回 教育課程をめぐる問題（教科書検定と歴史教育問題、教育行政の中立性） 学習指導要領とはどのようなものなのかを、その歴史をさかのぼり確認する。当初、「試案」であったものが法的拘束力を持つようになっていく過程も確認する。そして、教科書検定を検討し、教育行政の中立性という原理を確認する。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第9回 教育課程をめぐる問題（小学校英語教育を考える） 2008年の学習指導要領の改正の目玉の一つである小学校英語教育の課題、問題点を確認し、その

	可能性について議論する。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 教育方法をめぐる問題（アクティブラーニング、習熟度別授業など） 習熟度別授業の有効性をデータに基づいて検証する。またアクティブラーニングという考え方を理解する。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第10回 道徳教育の課題（「生命に対する畏敬の念」をめぐって） 道徳教育のテーマである「声明に対する畏敬の念」を育むための教材を検討する。人工中絶、人工授精、出生前診断、減数手術、借り腹などを検討する。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第11回 特別支援教育の課題（『五体不満足』、「合理的配慮」を考える） 特別支援教育の理念を乙竹洋匡氏の著書を通じて学ぶ。また現在の特別支援教育の制度について確認する。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第12回 生徒指導の課題（「いじめ問題」を考える） 「葬式ごっこ」という事例を検討し、いじめの構造を理解し、教師としてどのように対応するかを考える。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第13回 学級経営の課題（「学級崩壊」と「ゼロトレランス」を考える） 学級崩壊の状況を確認する。それに対する対応策として、ゼロトレランスという考え方と全国生活指導研究会の事例を比較検討する。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第14回 まとめ（子どもと貧困、学ぶ権利） 本講義のまとめ。授業内容の確認のための小テストを含む。 【事前学習】第1回から第14回までのレジュメを各60分ほど再読する（計14時間） 【事後学習】テスト問題の復習を行う。（計2時間） 第15回 ※講義以外に60時間の学修時間を要する。概ね、各回の【事前学習】に30分、【事後学習】に30分、テスト前準備に14時間、テストの復習に2時間、レポート作成に30時間を想定している。 第16回 なし
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【 】 3) ICTの活用 【 】 4) 初年次教育 【 】 5) 実践的PBL 【 】
テキスト	講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。
参考書	各回の授業で提示する。 『沖縄で教師をめざす人のために』（上地完治・他編、共同出版） 『やさしい教育原理 新版補訂版』（田嶋一・他著、有斐閣アルマ） 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成30年3月公示予定 文部科学省）
評価方法	平常点（56%）、テスト（30%）、レポート（14%）。 平常点は、授業での課題点であり、発言内容、授業態度も含まれる。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【D P 1～4との関連】 【 】 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【 】 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 【○】 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 【 】 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	教職科目である。教員になる強い意志を持ち参加すること。
オフィスアワー	月曜日・火曜日の昼休み、北棟4-3研究室
課題に対するフィードバック方法	課題はコメントを付し、授業中に返却する。

講義科目名称： 教職の意義

授業コード： 5501A

英文科目名称： Principles of Teaching

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1年	2単位 (2-0)	教職科目
担当教員			
照屋 信治			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC101		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 教職の意義、教員の役割、職務内容を理解し、教員になるための心構えをつくる。 【到達目標】 ○現代の教員に求められる基礎的な資質能力や教員の職務の全体像及び研修の意義や制度上の位置付けについて理解することができる。 ○教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解することができる。 ○校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解することができる。		
授業の概要	「教職の意義」は、1年次の教職科目である。受講生は、小学校から高校まで学校教育と関わってきたが、教職の世界について知っているようで知らない分野も多々ある。この講義では、教職の意義や教員の職務内容等を学び、公務員としての教員の制度上の位置づけや身分保障、学校における役割について、学生の主体的な参加によって授業を創りたいと考えている。なお、担当者は約10年、公立の高校における教員経験と20年以上の教育学研究の経験有するものであり、その経験を活かして、「教職の意義」を学生と論じあいたい。授業の前半は講義を主とし、授業の後半では、前半の講義を受けての学生の議論、報告、作業を行う。学生の積極的・主体的な取り組みが求められる。		
授業計画	第1回	講義の概要説明（授業の目的、シラバス、授業の方法、テキスト、登録） 登録調整をし、授業の目的や内容、進め方、テキストについて説明する。 [事前学習] 教職の意義のシラバスをよく読むこと（2時間） [事後学習] 講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する（2時間）	
	第2回	※遠隔授業の場合：Teamsを利用する。 現代社会における教職の意義 教職は子どもの生きる力を培い、充実した人生と社会生活をもたらすとともに、国家社会の次代の担い手を育成するという使命をもつ職業であることを解説する。＜講義・グループワーク＞ [事前学習] 教職の意義のシラバスをよく読むこと。第1回目の資料を読み、理解すること（2時間） [事後学習] 講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する（2時間）	
	第3回	※遠隔授業の場合：Teamsを利用する。 教員の種類・役割と仕事の性格 現行の教育制度について学校教育法第1条（1条校）をもとに解説し、教員の種類と教科指導・教科外指導等について整理し、職場環境についても解説する。＜講義・グループワーク＞ [事前学習] 教職の意義のシラバスをよく読むこと。1条校をしらべておくこと（2時間） [事後学習] 講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する（2時間）	
	第4回	※遠隔授業の場合：Teamsを利用する。 教員生活の1年間 4月から3月までの一年間を学級経営の視点や学年・学校行事から俯瞰し、教員生活のあり様について解説する。＜講義・グループワーク＞ [事前学習] 教職の意義のシラバスをよく読むこと。学校行事の種類についてしらべておくこと（2時間） [事後学習] 講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する（2時間）	
	第5回	※遠隔授業の場合：Teamsを利用する。 教員の仕事と専門性Ⅰ（子ども理解と学級経営） 子ども理解と学級経営は、担任と子どもとの関係性構築の上でも重要なことである。「子どもを理解するとはどのようなことか」「望ましい学級経営とはどのようなものか」について考える。＜講義・グループワーク＞ [事前学習] 教職の意義のシラバスをよく読むこと。学級経営とは何か、事前に調べておくこと（2時間） [事後学習] 講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する（2時間）	
	第6回	※遠隔授業の場合：Teamsを利用する。 教員の仕事と専門性Ⅱ（教科指導） 教員の主たる仕事は、教科を指導することである。児童生徒にとって「わかる授業」「楽しい授業」を創るためには専門性に裏付けられた教材開発と授業展開、評価方法が求められる。授業事	

	例を紹介しながら、「教科指導とは何か」について解説する。＜講義・グループワーク＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。教材開発とは何か、調べておくこと（２時間） [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する（２時間）
第 7 回	※遠隔授業の場合：Teamsを利用する。 教員の仕事と専門性 III（特別活動・生徒指導） 特別活動とは学校生活の中で児童・生徒による集団的な取組みを総称し、生徒指導は児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるように指導、援助するものである。講義では、学生の経験を報告し合いながら、特別活動と生徒指導について整理する。＜講義・グループワーク＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。特別活動の特色を調べておくこと（２時間） [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する（２時間）
第 8 回	※遠隔授業の場合：Teamsを利用する。 教員の仕事と専門性 IV（進路指導・教育相談） キャリア教育の視点に立脚した進路指導や児童生徒の学校生活における学習相談、生活相談等を包括した教育相談について解説する。＜講義・グループワーク＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。キャリア教育、進路指導、教育相談の違いを調べておくこと（２時間） [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する（２時間）
第 9 回	※遠隔授業の場合：講義資料をGoogle Classroomに掲載し、ZOOMを活用する。 以後の授業でも同様である。そのため、毎回、事前にGoogle Classroomをチェックすること。 教員の仕事と専門性 V（保護者・地域・関係機関との連携） 家庭教育支援が求められている昨今、保護者・地域・関係機関との協力と連携は益々重要視されている。事例を紹介しながら、成果と課題を解説する。＜講義・グループワーク＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。沖縄県の家庭教育支援について調べておくこと（２時間） [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する（２時間）
第 1 0 回	※遠隔授業の場合：Teamsを利用する。 学校における教職員の連携・協働 チーム学校とは、校長のリーダーシップのもとで、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして児童生徒に必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校のことである。事例を紹介しながら解説する。＜講義・グループワーク＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。チーム学校の意味を、文科省のHPで調べておくこと（２時間） [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する（２時間）
第 1 1 回	※遠隔授業の場合：Teamsを利用する。 教員の職場環境 校務分掌を含む学校の基本的な組織について概説し、教育機関としての学校のあり方について解説する。＜講義＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。公務分掌の種類について事前に調べておくこと（２時間） [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する（２時間）
第 1 2 回	※遠隔授業の場合：Teamsを利用する。 教員の任用と服務 教員の服務・身分保障と研修について、主に、地方公務員法と教育公務員特例法の関連条文を紹介し、事例を紹介しながら解説する。＜講義＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。地方公務員法、教特法の概略をつかんでおくこと（２時間） [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する（２時間）
第 1 3 回	※遠隔授業の場合：Teamsを利用する。 教員に求められる資質能力 教員に求められる資質能力（教職に対する強い情熱、教育の専門家としての確かな力量、総合的な人間力）を文科省の関連資料をもとに議論し、整理する。＜講義・グループワーク＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。教員の資質能力について、事前に調べておくこと（２時間） [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する（２時間） ※遠隔授業の場合：Teamsを利用する。

	第14回 教員養成と教職課程 現行の日本の教員養成制度と教職課程について概説し、教職大学院の設置状況、これをめぐる諸問題についても解説する。＜講義＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。教職課程の概要をつかんでおくこと（2時間） [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する（2時間） 第15回 ※遠隔授業の場合：Teamsを利用する。 教員の採用選考・まとめのテスト 全国的な教員採用選考試験の動向、選考方法等について解説する。＜講義＞ 全範囲のまとめのための小テストを行う。 [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。採用試験のあらましを調べておく（2時間） [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する（2時間） ※遠隔授業の場合：Teamsを利用する。
授業における具体的な特色や方法	グループでの意見交換などの発言の機会が毎回の授業である。自身の発言の質が講義のクオリティを決めることを自覚したうえで主体的に参加する必要がある。 配布資料を整理し、その回の学習内容（知識）を確認する。 危機管理の際して、大学の方針により遠隔授業の可能性あり。
テキスト	配布資料をテキストとして用いる。学んだ内容を読み直し、整理すること。
参考書	河野桃子編著『はじめての教職論』学事出版、2021年 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』 その他、授業の中で、適宜、紹介します。
評価方法	授業への参加度、授業態度、授業中の課題、テストによって総合的に評価する。 試験：44％ 講義における態度・発表・参加度・課題：56％ ※遠隔授業の場合：テストをレポートに変更する。レポート44点、講義における態度・発表・参加度・課題：56％
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良（C）70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可（D）60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可（F）60点未満：到達目標を達成していない 欠（K）—：出席不足 ※遠隔授業の場合、評価方法を変更するため、ルーブリックについても変更あり。詳細は講義内で説明。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 【 】1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【○】2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 【○】3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 【○】4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1 「教職の意義」は、教職科目の必修科目であり、今後の教職課程履修の出発点である。真摯な態度で授業に臨んでほしい。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出すること。 2 配布資料をきちんとファイルしておくこと。 3 板書、パワポの内容は、ノートに丁寧にまとめるようにして下さい。 ※遠隔授業の場合、Teamsで提示する資料や課題を必ず確認すること。Teamsにて授業を実施する回は、授業開始時にはスマートフォンやPCで参加できるよう準備すること。
オフィスアワー	月曜日・火曜日のお昼時間、その他の時間でも可。チャットでアポをとってください。
課題に対するフィードバック方法	課題やプリントは、評価して返却する。Teamsの課題機能を活用する。

講義科目名称： 教育の制度

授業コード：

英文科目名称： Educational Systems

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	教職科目
担当教員			
照屋 信治			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC202		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 現代公教育制度の意義、原理及び構造について、その法的及び制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付け、そこに内在する課題を理解する。また、学校安全、学校と地域との連携についての理解を深める。 【到達目標】 ①公教育の原理及び理念を理解している。②公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。③教育制度を支える教育行政の理念及び仕組みを理解している。④教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。⑤地域との連携及び協働による学校教育活動の意義並びに方法を理解している。⑥地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。⑦学校の下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、学校保健安全法に基づき、危機管理並びに事故対応を含む学校安全の必要性を理解している。⑧生活安全、交通安全及び災害安全等の各領域の安全管理並びに安全教育の両面から具体的な取組を理解している。		
授業の概要	上記のテーマや到達目標を達成するため、具体的な事例として、以下の問題群を検討してゆく。八重山教科書問題、朝鮮学校高校授業料無償化問題、学校選択制度、学区制の問題、沖縄県の高校再編問題、七生養護学校の性教育裁判、子どもと貧困など。授業方法としては、授業の前半は講師による問題の解説をおこない、後半は学生による意見交換・議論・課題作成などを行う。		
授業計画	第1回 七生養護学校の性教育裁判について（オリエンテーション、教育行政の中立性について） 講義の概要説明、教育の制度を学ぶ意義、評価の方法、レポートのタイトルなどについて伝える。七尾養護学校の事例を取り上げ、教育行政の中立性について確認する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第2回 八重山教科書問題を考えるー育鵬社公民教科書を読む①（教科書採択制度について） 八重山教科書問題の概要を説明し、教科書の広域採択制度の意義と課題を確認する。それと同時に、問題となった育鵬社と東京書籍の教科書を読み比べてみる。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第3回 八重山教科書問題を考えるー教育委員会の役割を学ぶ②（教育委員会制度について） 八重山教科書問題の論点の一つに教科書を採択する権限がどこにあるのかという点があった。その点を確認しつつ、教育委員会制度の意義について確認する。教育委員会制度の改正の経緯と眼目を理解する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第4回 2007年の沖縄県民大会を考える（教科書検定制度について） 2007年の歴史教科書をめぐる沖縄県民集会の経緯を確認し、教科書検定制度の歴史と課題を確認する。国定教科書制度、検定制度、自由採択など各国の状況も確認する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第5回 学習指導要領について（その歴史、法的拘束力について） 学習指導要領について学ぶ。学習指導要領の歴史的な背景を確認し、「試案」から「告示」へ、各回の改定の傾向などについて学ぶ。特に、2008年改定の学習指導要領の内容を確認する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第6回 アメラジアン教育権について（教育基本法を考える） アメラジアンスクール・イン・オキナワの事例を検討し、多文化共生教育にとどまらず、ダブル教育権について考える。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。また、アメラジアンスクール・イン・オキナワに関する文献を3つ以上調べ、2000字程度のレポートにまとめる。30時間程度の学修時間を要する。 第7回 在日コリアンの教育をめぐる①（教育財政、高校授業料無償化について） 高校授業料無償化の意義と課題を考える。朝鮮学校をその制度の対象から除外したことの課題を確認しつつ、同制度の意義を理解する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第8回 在日コリアンの教育をめぐる②（在日コリアンと学校の歴史的経緯） 戦後日本の在日コリアンの教育を概観することにより、日本の教育制度の問題点を確認する。多文化共生教育の必要性を理解する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第9回 在日コリアンの教育をめぐる③（多文化共生教育を保障する制度） 多文化共生社会の実現のために学校制度に求められていることを検討する。在日コリアンをはじめ、日本におけるマイノリティの教育権を確認し、具体的な事例を紹介する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。		

	第10回 公立小中学校の学校選択制度を考える（学校選択制度について） 新自由主義的教育改革の有効性を検討する。具体的には、公立小中学校の学校選択制度について取り扱う。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第11回 高校入試を考える—全入をどう考えるか—（6・3・3制度を考える） 中学校と高校の接続の問題、6・3・3・の教育制度の問題点を、各国との比較や研究者の意見を吟味しつつ考察する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第12回 沖縄県の公立高校再編計画を考える（学区制度について） 戦後教育改革で、新制高校設置の原理の一つとして小学区制が採用された。その意義を確認しつつ、近年の学区制の拡大が何をもたらすのかを理解する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第13回 子どもと貧困（その概略、子どもを支える仕組み、学校と地域の連携） 教育権の保障について学ぶ。6人に1人の子どもが相対的な貧困の状況にあるという状況を確認し、日本国憲法第26条の意義を再確認する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第14回 学校安全について（学校での事故と訴訟、学校の取り組み） 学校安全について考える。学校での事故の事例を取り上げ、その訴訟の結果を確認する。そのうえで、学校や教員に求められている取り組みを考える。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第15回 全体のまとめ（大阪の教育行政基本条例を考える） 競争と教育の関係について確認しながら、本講義のまとめを行う。授業内容確認のための小テストも行う。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。授業のプリント14回分を各1時間かけ復習する。計14時間程度の学修を行う。 【事後学習】テストの復習を行う（2時間程度） ※講義以外に60時間の学修時間を要する。概ね、各回の【事前学習】に30分、【事後学習】に30分、テスト前準備に14時間、テストの復習に2時間、レポート作成に30時間を想定している。 第16回 なし
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【 】 3) ICTの活用 【 】 4) 初年次教育 【 】 5) 実践的PBL 【 】
テキスト	教師作成のレジュメをテキストとして用いる。
参考書	参考書等は各回の授業で提示する。 『沖縄で教師をめざす人のために』（上地完治・他編、共同出版） 『新しい時代の教育制度と経営』（岡本 徹、佐々木司著、ミネルヴァ書房） 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成30年3月公示予定 文部科学省）
評価方法	平常点（56%）、テスト（30%）、レポート（14%）。 平常点は、授業での課題点であり、発言内容、授業態度も含まれる。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A） 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B） 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良（C） 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可（D） 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可（F） 60点未満：到達目標を達成していない 欠（K） — ：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 【 】 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【 】 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 【○】 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 【 】 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1 履修要件として教育の原理を履修済みであること。 2 「教職の基礎理論」に関する科目である。 3 教師になる強い意志を持って履修すること。欠席せず皆出席すること。 止むを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する
オフィスアワー	月曜日・火曜日の昼休み、北棟4-3研究室
課題に対するフィードバック方法	課題はコメントを付し、授業中に返却する。

講義科目名称： 教育心理

授業コード： 5503A

英文科目名称： Educational Psychology

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	教職科目
担当教員			
廣瀬 等			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC201		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	①テーマ：教育心理学の理論と活用 ②到達目標 1) 教育心理学の主要な内容について理解することができる。〔知識・理解〕 2) 日常生活や教育場面において、教育心理学的な視点を持って活用できる。〔技能〕 3) 教育心理学に関わる話題や議論について、参加できる。〔態度〕		
授業の概要	教育活動を理解する上で重要な生徒の心身の発達及び学習の過程について、発達段階の心理的特性を踏まえて教育活動を支援するための知識や技術を講義する。毎回、講義後に講義内容について、これまでの自分の経験を振り返るとともに、教員となった場合にどのような工夫ができるか等について、個人や集団で検討する。		
授業計画	第1回	記憶力がいいとはどういうことか（記憶、忘却） 自分ももっと記憶力が良かったら、と思ったことはないでしょうか。テストの前に一夜漬けで覚えようと思ってもなかなか覚えられないし、せっかく覚えたことも試験が終わるとすぐに忘れてしまう、という経験はだれしも持っているでしょう。それでも私たちは成長とともに、膨大な量の情報を記憶していきます。この章では、人間の記憶の基本的な仕組みについて、「短期記憶」「長期記憶」「干渉」「検索失敗」などのキーワードから見ていきます。 【事前学習】テキストpp. 1～20を読み、記憶と忘却について理解する。（2時間） 【事後学習】日常生活や教育場面における記憶や忘却の働きについて、自分の経験を振り返り省察する。（2時間）	
	第2回	学ぶことと考えること（知識、問題解決） 「学ぶ」という言葉から私たちがまず思い浮かべるのは、いままで知らなかった歴史や科学の知識を身につけたり、数学の問題が解けるようになったり、英語で話ができるようになったりすることでしょう。この章では、知識と問題を解決することについて、知識については「宣言的知識」「手続き的知識」「素朴概念」「ルールとバグ」、問題解決については「アルゴリズム」「ヒューリスティクス」「メタ認知」などのキーワードから説明します。 【事前学習】授業前にテキストpp. 21～44を読み、知識、問題解決について理解する。（2時間） 【事後学習】日常生活や教育場面における知識や問題解決の働きについて、自分の経験を振り返り省察する。（2時間）	
	第3回	ほめることの大切さ（条件づけ、観察、自己強化） 子どもの頃に学校で先生からほめられてうれしかったという経験や、テストで良い成績をとったり、スポーツ大会で入賞したときなどに、なんともいえない満足感を得たことがあるかも知れません。このように、他者からほめられることや自分自身で達成感を体験することによって、もっとがんばろうと思ったりするのです。この章では、ほめることが学習の成立に重要であることを、「条件づけ」「モデリング」「自己調整モデル」などのキーワードから明らかにしていきます。 【事前学習】授業前にテキストpp. 45～73を読み、条件づけ、観察、自己強化について理解する。（2時間） 【事後学習】日常生活や教育場面における条件づけ、観察、自己強化について、自分の経験を振り返り省察する。（2時間）	
	第4回	「やる気」を考える（動機づけ理論） 人は持っている能力を十分発揮するためには「やる気」が欠かせません。何かひとつのことを頑張ってやり遂げるのはうれしいものです。人はどのような時に一番頑張るのでしょうか。逆にどのような時に一生懸命にやろうとする気がなくなってしまうのでしょうか。この章では、達成動機と呼ばれる問題に関して「期待一価値モデル」「学習性無力感」「内的一外的統制」「原因帰属」「内的動機づけ」などのキーワードからいくつかの考え方を紹介します。 【事前学習】授業前にテキストpp. 75～100を読み、動機づけ理論について理解する。（2時間） 【事後学習】日常生活や教育場面における動機づけ理論の適用について、自分の経験を振り返り省察する。（2時間）	
	第5回	第1回～第4回まとめ これまで学んできた、第1回「記憶力がいいとはどういうことか」、第2回「学ぶことと考えること」、第3回「ほめることの大切さ」、第4回「やる気」を考える」において学習した内容について、キーワードとなる内容を中心に、理解しているかどうかを確認しながら振り返ります。さらに、子どもの悩み相談の事例を取り上げて、これまで学んできたことからどのように対応できるかを考えます。 【事前学習】授業前にテキストpp. 1～100を読み返し、「記憶、忘却」「知識、問題解決」「条件づけ、観察、自己強化」「動機づけ理論」についての理解の定着を確認する。（2時間） 【事後学習】第1回～第4回に関わる課題レポートについてまとめる。（2時間）	
	第6回	学級という社会（学級集団、教師生徒関係、友人関係） 小学校時代や中学校時代を思い出すと、勉強とともに多くの友人や先生の顔を思い出すかも知れません。学校ではさまざまな教科について学習します。また、振り返ってみると級友、他のクラスの友人や先輩、あるいは多くの教師との悲喜こもごもの触れ合いから、いかに多くのことを学んだかを、実感するのではないのでしょうか。この章では、「教師期待効果」「いじめ」「ソシオメトリックテスト」などのキーワードから学級という社会について見ていきます。 【事前学習】授業前にテキストpp. 101～128を読み、学級集団、教師生徒関係、友人関係について理解する。（2時間） 【事後学習】日常生活や教育場面における学級集団、教師生徒関係、友人関係について、自分の経験を振り返り省察する。（2時間）	

第7回	どのように教えるか（学習指導、適性処遇交互作用） 現在では、コンピュータによる授業がほとんどの学校で取り入れられています。一斉学習が指導形態の基本となっていますが、グループ学習やコンピュータによる個別学習なども行われています。この章では、「発見学習」「仮説実験授業」「有意味受容学習」「ジグソー学習」「プログラム学習」などのさまざまな学習、学習活動の成果を学習者と教授者の関連から説明する「適性処遇交互作用」などのキーワードから授業の進め方について述べていきます。 【事前学習】授業前にテキストpp. 129～147を読み、学習指導、適性処遇交互作用について理解する。(2時間) 【事後学習】日常生活や教育場面における学習指導、適性処遇交互作用について、自分の経験を振り返り省察する。(2時間)
第8回	児童・生徒をどう評価するか（評価の種類、評価の情報） 学校の入学試験や定期試験をはじめ私たちはさまざまな機会にテストを受けます。テストを受けて他人から評価されるというのは何となく嫌なものです。しかし、どこが間違っているのか、何が欠けているのか、的確な評価がなくては学習は進みません。この章では、学習を支援する評価、教育指導のための評価という観点から、「絶対評価」「到達度評価」「形成的評価」「自己評価」などのキーワードにより、評価をとらえ直してみよう。 【事前学習】授業前にテキストpp. 149～171を読み、評価の種類、評価の情報について理解する。(2時間) 【事後学習】日常生活や教育場面における評価の種類、評価の情報について、自分の経験を振り返り省察する。(2時間)
第9回	人間の発達について考える（発達段階、遺伝と環境） 人間は誕生後、心身ともに成長していきます。特に、生まれてから中学あるいは高校時代までの発達の早さには驚かされます。発達を規定する要因は何でしょうか。皆さんがいまの自分に成長してきたのは、何によるものでしょうか。また、これまでの成長のみならず、老年期までの人間の一生についても見ていきます。この章では「発達段階」「成熟と学習」「遺伝と環境」「学習の臨界期」などのキーワードにより、人間の発達について考える材料を提供します。 【事前学習】授業前にテキストpp. 173～193を読み、評価の種類、評価の情報について理解する。(2時間) 【事後学習】日常生活や教育場面における発達段階、遺伝と環境について、自分の経験を振り返り省察する。(2時間)
第10回	第6回～第9回まとめ これまで学んできた第6回「学級という社会」、第7回「どのように教えるか」、第8回「児童・生徒をどう評価するか」、第9回「人間の発達について考える」において学習した内容について、キーワードとなる内容を中心に、理解しているかどうかを確認しながら振り返ります。さらに、子どもの悩み相談の事例を取り上げて、これまで学んできたことからどのように対応できるかを考えます。 【事前学習】授業前にテキストpp. 101～193を読み返し、「学級集団、教師生徒関係、友人関係」「学習指導、適性処遇交互作用」「評価の種類、評価の情報」「発達段階、遺伝と環境」についての理解の定着を確認する。(2時間) 【事後学習】第6回～第9回に関わる課題レポートについてまとめる。(2時間)
第11回	知的発達のメカニズム（知能、知能の発達） 知能検査という言葉はふだんからよく耳にするでしょう。知能指数とはいったい何でしょうか。そうして頭の良さを何か数字で表すことができるのでしょうか。さらに知能はどのように発達していくのでしょうか。この章では「知能指数」「いろいろな頭の良さ」「素朴な知能観」「ピアジェの発達段階」「ルールの発達」などのキーワードにより、知能を数値でとらえようとする試みと知能の発達についてのピアジェの考え方について紹介します。 【事前学習】授業前にテキストpp. 195～220を読み、知能、知能の発達について理解する。(2時間) 【事後学習】日常生活や教育場面における知能、知能の発達について、自分の経験を振り返り省察する。(2時間)
第12回	人格発達の基礎（発達段階、愛着） 人それぞれその人らしさというものがあります。自分自身、何かしらこれが自分らしさだ、と感じていることでしょう。これが私なのだという「自分らしさ」の感覚はどのようにして形づくられていくのでしょうか。この章では「フロイトの発達段階」「エリクソンの発達段階」「母子のきずな」「自我同一性」などのキーワードにより、アイデンティティという概念を提唱したエリクソンの考え方を、その背景となったフロイトの考え方とともにみていくことにします。 【事前学習】授業前にテキストpp. 221～245を読み、発達段階、愛着について理解する。(2時間) 【事後学習】日常生活や教育場面における発達段階、愛着について、自分の経験を振り返り省察する。(2時間)
第13回	困難を抱える子どもたち（発達障害） 教室で大きな声を出したり離席したりする子どもがいたり、しつがができていないとか、わがままだと考えがちです。多くの子どもたちは、人との交わり方や行動のコントロールの仕方を自然に学び身につけていきますが、発達初期の何らかの障害のためにこうした学習に困難を抱えている子どもたちがいます。この章では「知的障害」「自閉症」「注意欠如・多動性障害」「学習障害」などのキーワードにより、このような困難をもつ子どもたち、発達障害について紹介します。 【事前学習】授業前にテキストpp. 247～266を読み、発達障害について理解する。(2時間) 【事後学習】日常生活や教育場面における発達障害について、自分の経験を振り返り省察する。(2時間)
第14回	カウンセリングとは（心理療法） カウンセリングという言葉はきわめて広い意味で使われますが、限定してとらえると、心理的な問題を抱えた人々に対する援助を意味します。現在の学校は不登校やいじめなどさまざまな問題を抱え、児童・生徒の心理的な問題への援助サービスの必要性が高まっています。この章では、「クライアント中心療法」「行動療法」「認知療法」などのキーワードにより、治療的なカウンセリングのいくつかの理論的な考え方と、その応用例について紹介します。 【事前学習】授業前にテキストpp. 267～290を読み、心理療法について理解する。(2時間) 【事後学習】日常生活や教育場面における心理療法について、自分の経験を振り返り省察する。(2時間)
第15回	第11回～第14回まとめ これまで学んできた第11回「知的発達のメカニズム」、第12回「人格発達の基礎」、第13回「困難を抱える子どもたち」、第14回「カウンセリングとは」において学習した内容について、キー

	ワードとなる内容を中心に、理解しているかどうかを確認しながら振り返ります。さらに、子どもの悩み相談の事例を取り上げて、これまで学んできたことからどのように対応できるかを考えます。 【事前学習】授業前にテキストpp. 195～290を読み返し、「知能、知能の発達」「発達段階、愛着」「発達障害」「心理療法」についての理解の定着を確認する。(2時間) 【事後学習】第1回～第15回に関わる内容について復習し、定期試験に備える。(2時間) 定期試験 教育心理学の基礎事項の理解を確認する問題と、勉強がうまくいっていない児童・生徒に、教育心理学で学んだことを活用してどのような対応をしたらよいかを検討してまとめる問題の2部構成とする。
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 ☐ 2) 情報リテラシーに関する科目 ☐ 3) ICTの活用 ☐ 4) 初年次教育 ☐ 5) 実践的PBL ☐
テキスト	鎌原雅彦・竹綱誠一郎 『第5版 やさしい教育心理学』 有斐閣 2019
参考書	特になし
評価方法	評価は、課題レポート(40%)、定期試験(60%)を総合的に判断して行います。 課題レポートは、第5回の第1章～第4章まとめ時(20%)、および第10回の第5章～第8章まとめ時(20%)に課します。
評価基準	評価基準は、到達目標で示した3領域〔1) 教育心理学の主要な内容について理解することができる。2) 日常生活や教育場面において、教育心理学的な視点を持って活用できる。3) 教育心理学に関わる話題や議論について、参加できる。〕について、課題レポートと定期試験をとおして、以下の基準で評価を行います。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【D P 1～4との関連】 【○】 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【○】 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 【○】 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 【○】 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付けます。またはメールで返答します。hirose@edu.u-ryukyu.ac.jp
課題に対するフィードバック方法	課題レポートのフィードバックは授業において行います。

講義科目名称： 特別支援教育概論

授業コード： 5533A

英文科目名称： Special Needs Education

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年	2単位 (2-0)	教職科目
担当教員			
緒方 茂樹			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC206		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	テーマ:特別支援教育の制度の理念や仕組みと特別なニーズを有する子どもの特性を理解している。 知識・理解の観点:特別支援教育の理念及び発達障がいの子どもの特性とその対応についての知識を身につける。 技能の観点:インクルーシブ教育の基本的な概念を正確に説明できる。 態度の観点:障がいを含む特別なニーズについて理解しようとする基本的な態度を身につけ議論に参加できる。		
授業の概要	1) 特別支援教育の基本的な理念を理解し、インクルーシブ教育に当たっての留意点について学ぶ。 2) 特別なニーズを有する子どもへの支援に関わる教育課程と多様な学びの場、および就学支援の仕組みと実際について学ぶ。 3) 発達障がいを含む障がい由来の様々なニーズを有する子どもへの客観的な見方や評価の方法を身につける。 4) 貧困、外国に繋がる子ども等、障がいに由来しない特別なニーズを有する子どもへの客観的な見方や評価の方法を身につける。 5) 関係諸機関の種類と役割を理解し、保護者も含めて特別支援教育論に必要な連携の在り方について理解する。		
授業計画	第1回	特別なニーズを有する子どもを理解するために ここではまず障がいに対する考え方の基本的な理念を知るために、国際生活機能分類(ICF)の概念と法制度について理解します。次に、特別なニーズを有する子どもとはどのような子どもたちなのかについてその概要を知り、対応の基本を理解します。特に障がい児(者)については、種別と程度の観点から見る、すなわち障がいをふたつの軸でみるという ことの重要性を理解します。 〔事前学習〕:障がいにはどのような種類があるのかについて調べておく(120分) 〔事前学習〕:障がいをふたつの軸で見るということについて整理(120分)	
	第2回	ノーマライゼーションの考え方と合理的配慮 特別支援教育ではインクルーシブ教育の推進が望まれており、その根底には「ノーマライゼーション」の考え方があります。ここでは「ノーマライゼーション」について歴史的な経緯を含めて学ぶことで、健常者が障がい児(者)とどのように関わっていくべきかという、最も基本的なアプローチについて学びます。次にバリアフリーやユニバーサルデザインの手法を理解し、障がいのある子もない子も差別なく生きていける、いわゆる「共生社会」のために必要な環境要因の設定について考えていきます。これらのことを通じて、現在の特別支援教育の根幹である、インクルーシブ教育の考え方を理解をします。 〔事前学習〕:インクルーシブ教育についてその概要を調べておく(120分) 〔事前学習〕:ノーマライゼーションの基本的な考え方について「発想の転換」という観点から整理(120分)	
	第3回	知的障がい(遺伝性疾患)の特性と対応 ここでは知的障がいについて、その評価と障がい特性、対応の在り方の詳細を学びます。まず医学的な観点から、知的障がいの原因が先天性、後天性も併せてきわめて多様であることを 知りま す。さらに知的障がいの程度について、軽度から重度までの幅があること、それぞれの程度に応じて 教育に関わる対応が異なることも学びます。また知的障害を伴うことがほとんどである「ダウン症」については、遺伝的疾患としての特性をまず知り、次に実際に教育に当たって配慮すべき合併症(心臓病、視覚・聴覚障がい等)への対応について学びます。 〔事前学習〕:知的障がいに対しても自分のイメージについてまとめる(120分) 〔事後学習〕:ダウン症への教育に当たっての留意点について整理(120分)	
	第4回	視覚障がいの特性と対応(アクティブラーニング) ここでは視覚障がいについて、その評価と障がい特性、教育における対応の在り方の詳細を学びます。視覚障がいについてその原因が、先天的、後天的いずれにあるのかによって、障がいの受容に相違があることを知ります。また、視覚障害に特徴的な教材・教具の工夫についてグループディスカッションを通して考えま す。アクティブラーニングの内容を踏まえて、視覚障害の教育に特に重要な「抽象概念」の獲得の方法についても学びます。 〔事前学習〕:視覚障がいに対しても自分のイメージについてまとめる(120分) 〔事後学習〕:視覚障がいへの対応について特に抽象概念の獲得について具体例を考える(120分)	
	第5回	聴覚・言語障がいの特性と対応(アクティブラーニング) ここでは聴覚・言語障がいについて、その評価と障がい特性、対応の在り方の詳細を学びます。言語障がいについては、構音障がいをはじめ、言語発達遅滞や流暢性の問題などについて理解します。聴覚障がいについては、難聴の特徴(伝音性難聴・感音性難聴)によって子どもに対する対応が変わらなければならないこと学びます。アクティブラーニングで実際の感音性難聴の聞こえについても体験します。 〔事前学習〕:聴覚障がいに対しても自分のイメージについてまとめる(120分) 〔事後学習〕:聴覚障がいへの対応について感音性と伝音性に分けながら整理(120分)	
	第6回	肢体不自由、重度重複障がい、病弱等の特性と対応 ここでは肢体不自由、重度重複障がい(病弱も含む)について、その評価と障がい特性、対応の在り方を学びます。特に肢体不自由については、脳性麻痺(CP)を例にとりながら、麻痺の種類と原因等について理解します。さらに知的障がいを併せ持つ場合と、そうではない場合に分けながら、教育場面における具体的な対応のあり方と留意点についても学びます。肢体不自由によって生じる移動や運動に関するハンディキャップと、それに対する合理的配慮や基礎的環境整備についても併せて学びます。病弱については、訪問(院内)学級における 対応を含めた難病の理解についても併せて学びます。 〔事前学習〕:肢体不自由に対しても自分のイメージについてまとめる(120分) 〔事後学習〕:車椅子を利用している子どもへの対応の留意点について整理(120分)	

第7回	発達障がい(AD/HD)の特性と対応 ここでは発達障がいの中でも特に注意欠如・多動性障がい(AD/HD)について、その評価と障がい特性、対応の在り方について詳細に学びます。AD/HDの障がい特性である、衝動性、多動性、不注意について、個別に具体例を交えながら学んでいきます。また実際のAD/HDのエピソードを紹介しながら、医学的な側面からの薬物療法についても知ります。さらにAD/HDに特有な二次障がいのリスクとその回避について、早期発見の観点も含めながら学びます。 [事前学習]:AD/HDに対してもつ自分のイメージについてまとめておく(120分) [事後学習]:教育場面における特に衝動性の強いAD/HDへの具体的な対応について考える(120分)
第8回	発達障がい(LD)の特性と対応 ここでは発達障がいの中でも特に限局性学習障がい(LD)について、その評価と障がい特性、対応の在り方について詳細に学びます。LDの障がい特性である、読み、書字、計算について、個別に具体例を交えながら学んでいきます。LDは学校教育の場面で問題になることから、多様な学びの場との関わりも含めながら具体的な教育的対応(指導)のあり方について理解します。さらに実際のLDのエピソードを紹介しながら、学齢期を終了した後の予後(自立・社会参加)についても考えを深めていきます。 [事前学習]:LDに対してもつ自分のイメージについてまとめておく(120分) [事後学習]:手先の不器用さを併せ持つ、特に書字に問題のあるLDへの具体的な対応について考える(120分)
第9回	発達障がい(ASD)の特性と対応 ここでは発達障がいの中でも特に自閉症スペクトラムについて、その評価と障がい特性、対応の在り方について詳細に学びます。自閉症スペクトラムの障がい特性である、対人関係、コミュニケーション、こだわり・常同行動について、個別に具体例を交えながら学んでいきます。自閉症スペクトラムは特有の障がい特性のみならず、知的障がいを伴う場合も多いことから、自閉性と知的障がいの程度を二軸とした多様性についても理解します。また自閉症スペクトラムは予後が難しいことが多いことから、学齢期を終了した後の自立についても考えを深めていきます。 [事前学習]:自閉症スペクトラムに対してもつ自分のイメージについてまとめておく(120分) [事後学習]:知的障がいのない、特にコミュニケーションに課題のある自閉症スペクトラムへの具体的な対応について考える(120分)
第10回	発達障がいのある子どもの理解(アクティブラーニング) ここでは、特に自閉症スペクトラムに特異的な障がい特性についてアクティブラーニング形式で実際に学んでいきます。自閉症スペクトラムは特有の知覚認知の特性をもつことが知られていることから、様々な図表を自分の目で実際に見ながら、自閉症スペクトラムの子どもが、事物をどのように知覚認知しているのかシミュレーションをします。このアクティブラーニングによる実際に体験に基づいて、環境要因を整える構造化の方策も交えながら、自閉症スペクトラムへの対応の留意点について考えていきます。 [事前学習]:TEACCHにおける「構造化」について調べておく(120分) [事後学習]:知的障がいがあり、特にこだわりの強い自閉症スペクトラムへの具体的な対応について考える(120分)
第11回	障がいに由来しない特別なニーズを有する子どもの概要とその理解 ここでは貧困や外国に繋がる子ども等、障がいに由来しない特別なニーズを有する子どもについて、その評価と特性、対応の在り方について概要を学びます。貧困が子どもに及ぼす影響については、家庭環境を考慮した家族支援の観点も踏まえながら対応の方策と留意点について理解します。外国に繋がる子どもについては、LDの事例も見ながら、内言語と外言語のギャップや抽象概念の理解に関する問題なども含めて考えていきます。 [事前学習]:貧困に対してもつ自分のイメージについてまとめておく(120分) [事後学習]:外国に繋がる子どもについて、特にコミュニケーションの観点から具体的な対応について考える(120分)
第12回	特別なニーズを有する子どものための教育課程と多様な学びの場(就学支援) ここでは特別なニーズを有する子どもに対する具体的な教育的支援の方策について学びます。まず特別支援教育における「個に応じた教育」を理解し、自立活動を例に特別支援教育に特化した教育課程の枠組みとその目的について学びます。次に多様な学びの場と就学支援の実際について知りたい、普通学校に設置されている、通常の学級、通級指導教室、特別支援学級から、特別支援学校、あるいは訪問(院内)学級に至る、多様な学びの場について学びます。さらに、それぞれの学びの場についてその特性と目的について理解し、併せて就学支援の仕組みについても学びます。 [事前学習]:多様な学びの場の種類について調べておく(120分) [事後学習]:就学支援の具体的な流れと留意点について整理し、まとめる(120分)
第13回	地域で子どもを支える支援ネットワークシステム ここでは子どもを中心とした支援ネットワークを構築する際に不可欠な、外部資源である関係諸機関等の種類と役割について、教育、福祉・保健、医療の分野毎に整理しながら理解します。さらに中頭圏域で作成されたリソースマップを見ながら学校を取り巻く様々なリソースについて具体的に知ります。これらを通して、支援ネットワークを考える場合には、段階的に都道府県レベル、圏域レベル(中部等)、市町村レベルにそれぞれリソースがあることを知り、自分が勤める学校の地域にあるリソースについて把握することの重要性を知ります。また、沖縄県で作成されているサポートノート「えいぶる」について知り、併せて個別的教育支援計画と指導計画についても学びます。 [事前学習]:自分の住む地域にある関連リソースを調べておく(120分) [事後学習]:教育と福祉・保健分野に用意されている都道府県レベルのリソースについてまとめる(120分)
第14回	特別なニーズを有する子どもの保護者・家族への支援と障がいの受容 ここではいわゆる「障がいの受容」について学び、中途障がいのみならず、保護者と家族支援の実際について学びます。まず、家族支援の実際として「きょうだい支援」を取り上げ、事例を見ながら具体的に理解を深めます。また障がい受容の過程については、ショック期から適応期へ至る一連のステージについて、その特性を踏まえながら理解します。さらに「保護者が我が子の障がいをどのように受け止めるのか?」という観点から、教員としての保護者への対応のあり方とその留意点について、障がい者手帳取得に関わる問題も交えながら学びます。 [事前学習]:「家族支援」の概要について調べておく(120分) [事後学習]:教員として障がいを有する子どもの保護者への対応について、特に留意点に絞って整理(120分)
第15回	まとめと振り返り(アクティブラーニング) これまで学んできたことを基盤として、アクティブラーニング形式でまとめをしながら今後の課

	題について考えます。 [事前学習]:この講義で最も印象に残った内容についてまとめておく(120分) [事後学習]:「個に応じた教育」について、自分なりの取り組み姿勢について整理(120 分) 第16回 定期試験 15回の講義内容を踏まえて、記述式の期末試験を行います。
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【 】 3) ICTの活用 【○】 4) 初年次教育 【 】 5) 実践的PBL 【 】
テキスト	「特別なニーズを有する子どもの育ちと学びを支えるために 上・下巻」(スライドデッキ:自作教材) 事前に配布
参考書	前田泰弘編 2019年 「実践に生かす障害児保育・特別支援教育」 萌文書林 (ISBN 948-4-89347-326-4 C3037)
評価方法	定期試験(60%)、授業中の態度(20%)、授業への参加度(20%)
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀(A)90点以上:到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優(B)80点~90点未満:到達目標を十分に達成している 良(C)70点~80点未満:到達目標をある程度達成している 可(D)60点~70点未満:到達目標を最低限達成している 不可(F)60点未満:到達目標を達成していない 欠(K) - :出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【D P 1~4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	教職科目であることから、教員になる強い意志を持ち参加してください。 講義には目的意識を持って、主体的に参加し、講義を通じて自ら思考する態度を身に付けること。 演習の場面では積極的にディスカッションに参加してください。 また、講義中は他者への迷惑行為(携帯電話・メール・私語・離席等)を固く禁止します。 スライドデッキなど関連する資料は講義開始時に配布予定です、講義で使用するので必ず確認してください。
オフィスアワー	週月曜日 4 限目緒方研究室(西3-2) 授業終了後、あるいは次回授業前に質問を受け付けます。 連絡はメール(jerrysopart@gmail.com)あるいはチャットでお願いします。
課題に対するフィードバック方法	課題などの詳細は授業内で説明予定です。

講義科目名称： 道徳教育の理論と方法

授業コード：

英文科目名称： Theories and Methods of Moral Education

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3年	2単位 (2-0)	教職科目
担当教員			
照屋 信治			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC302		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 道徳教育の意義や原理を踏まえ、歴史と現代的課題を学び、道徳教育の実践者としての基礎を養い、学校教育における授業実践・教育実践の準備を行う。 【到達目標】 ①道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。②子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。③学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。⑤学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。⑥道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。⑦道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。⑧授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。⑨道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。⑩模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。		
授業の概要	主に日本の学校教育との関わりで道徳教育の歴史と理論を振り返り、道徳に関わる教育問題を検討し、学校における道徳教育実践を検討する。それらを通じて、道徳教育に関する基礎的な素養の獲得を目指す。そのうえで、学校教育の場における道徳指導、特別の教科である道徳の授業の指導案作成・模擬授業が行えるように、複数の教授法を学び、教材の特質を研究する。		
授業計画	第1回 授業の概要説明、道徳教育の体験を語り合う 本講義の概要説明。道徳教育はどうあるべきか。評価方法の確認。今まで受けてきた学校での道徳教育の経験をクラスメイトとシェアする。 【事前学習】自身が受けてきた道徳教育を振り返り、あるべき道徳の授業について話せるように準備をする。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。 第2回 同和（人権）教育を学ぶ①（その歴史と現状） 部落差別に関して学ぶ。道徳教育の大原則は他者の尊重であり、人権の尊重である。それが十全に保障されていない現状を学ぶ。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。 第3回 同和（人権）教育を学ぶ②（多文化共生時代の道徳教育の在り方） 同和教育の実践を確認する。また、ロールプレイを用いたアクティビティを行う。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。 第4回 道徳教育の歴史①（戦前の修身教育と教育勅語） 「教育勅語」に象徴される戦前の修身教育の在り方を理解する。その上で、現代の道徳教育がどのようなものか理解する。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。 第5回 道徳教育の歴史②（戦後の道徳の教科化をめぐる議論） 1958年の「道徳の時間」の特設をめぐる議論を確認する。さらに近年の教科化をめぐる議論を理解する。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。 第6回 学習指導要領と道徳教育―「愛国心」と道徳教育を考える 学習指導要領の道徳の内容と理念を確認したうえで、「我が国と郷土を愛し」という個所がなぜ議論の焦点となるのかを理解する。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。 第7回 「心のノート」（私たちの道徳）の意義と問題点を考える 『心のノート』の作成経緯を理解し、その問題点を確認する。それと同時に『心のノート』を引き継いだ『私たちの道徳』の活用法を検討する。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。 第8回 いじめ問題を考える 「葬式ごっこ」を検討し、「いじめの四層構造」を理解し、学級担任として、どのような指導が求められているのかを確認する。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。 第9回 〈生・性・死〉の授業の意義を考える 「生命に対する畏敬の念」はどのようにして育まれるのかを考える。ニワトリを殺して食べる授業実践を検討する。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。 第10回 道徳の指導案の作成について 道徳の学習指導案の作成方法を教授し、実際に学習指導要領を作成する。学期末に提出する。		

	【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】道徳の指導案を作成し提出してもらう。提出前に、授業外でクラスメイトとミニ模擬授業をおこなってもらう。指導案の作成のための調べる作業、作成作業、ミニ模擬授業で30時間ほどの学修時間を必要とする。 第11回 道徳教育と構成的グループエンカウンター 人間関係づくりの手法として構成的グループ・エンカウターの有効性が指摘されている。構成的グループ・エンカウターの理解と道徳教育での活用法を学ぶ。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】構成的グループエンカウンターを用いた授業案を複数読んでもらう。 第12回 道徳性の発達（コールバーグ）とモラルジレンマ授業①（理論） 道徳性の発達理論の一つとしてコールバーグが提唱したモラルジレンマ授業の理論を理解する。また、代表的な授業を体験してみる。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】モラルジレンマ教材を複数目を通してもらう。 第13回 道徳性の発達（コールバーグ）とモラルジレンマ授業②（教育実践例） コールバーグのモラルジレンマ授業への批判を踏まえうえて、別のモラルジレンマの授業を体験してもらい、その授業検討会を行う。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】モラルジレンマ教材を複数目を通してもらう。 第14回 学生による模擬授業と反省会①（構成的グループエンカウンター） 学生に構成的グループ・エンカウンターを用いた道徳授業の模擬授業を行ってもらう。また、指導案を読み込み、自分なりにどう改良できるか考えてみる。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】構成的グループエンカウンターを用いた授業案を複数読んでもらう。 第15回 学生による模擬授業と反省会②（モラルジレンマの授業）と小テスト 学生にモラルジレンマの模擬授業を行ってもらう。授業者である学生は、開講直後より教員の指導を受け授業づくりをしってもらう。他の学生には、生徒役で体験してもらう。また、本講義のまとめとして、授業内容確認のための小テストを行う。 【事前学習】これまでの授業のレジュメを各1時間程度かけ再読し、小テストに備えてもらう。 14時間程度の学修時間を必要とする。 【事後学習】小テストの復習をしってもらう（2時間程度） ※講義以外に60時間の学修時間を要する。概ね、各回の【事前学習】に30分、【事後学習】に30分、テスト前準備に14時間、テストの復習に2時間、レポート（学習指導案）作成に30時間を想定している。 第16回 なし
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【 】 3) ICTの活用 【 】 4) 初年次教育 【 】 5) 実践的PBL 【 】
テキスト	講師が配布する資料、プリントをテキストとして用いる。
参考書	柴田義松（編著）『道徳育～理論と実践』学文社 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成30年3月公示予定 文部科学省）
評価方法	授業中の課題点（70%）（授業態度、発言の質等含む）、テスト点（30%）、
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良（C）70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可（D）60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可（F）60点未満：到達目標を達成していない 欠（K）－：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 【○】1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【 】2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 【○】3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 【 】4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1 履修要件として、教育の原理、教育の制度を履修済みであること。 2 「教育課程及び指導法」に関する科目である。教師になる強い意志を持って履修すること。 出席状況等を十分加味する。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する。 3 私語、居眠り、内職など、教師としてふさわしくない授業態度の者には単位を認定しない。
オフィスアワー	月曜日・火曜日の昼休み、北棟4-3研究室
課題に対するフィードバック方法	課題はコメントを付し、授業中に返却する。

講義科目名称： 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 授業コード：

英文科目名称： Teaching Methods of Special Activities and General Studies

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	3年次	2単位 (2-0)	教職科目
担当教員			
芳澤 拓也			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC304		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	1) 学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を知り、理解することができる。 2) 教育課程における特別活動の位置づけと他教科等との関連を知り解説することができる。 3) 学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事等の特質と指導のあり方を知り、解説することができる。 4) 合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を知り、例示することができる。		
授業の概要	ここでは、「なすことによって学ぶ」（特別活動）という学習論・指導原理を学んでいく。具体的には、「なすこと」による学習が、①学校教育の中で歴史的にどのように位置づけられてきたか、②学習指導要領においてどのように位置づけられているか、③他教科や地域との関わりを含めつつ、どのように計画、実践、評価するものとして構想されているのか、具体的な事例を参照しながら学んでいく。こうした学習を通じて、「なすこと」による学習が、求められる資質・能力論との関係で再構成されつつあることを理解しつつ、集団や社会の中で通用する自分づくりのあり方について考察していきたい。		
授業計画	第1回 「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」という授業についてー集団的な学びと探究的・教科横断的な学び、特別活動、総合的な学習（探究）の時間の歴史ー 【事前学習】（2時間） 「特別活動」「総合的な学習の時間の指導法」とはどのような時間なのか、イメージしてきてください。 【事後学習】（2時間） 「特別活動」「総合的な学習の時間の指導法」の学習の方法論をまとめ、課題を提出してください。 第2回 学習指導要領における特別活動の位置づけー目標、内容、3つの領域と育成が目指される資質・能力 【事前学習】（2時間） 「学習指導要領」における「特別活動」の項目に目を通してください。 【事後学習】（2時間） 「学習指導要領」にて「特別活動」の項目を復習し、授業内で提示された課題を提出してください。 第3回 教育課程における特別活動年間計画、実践・取組の評価、その改善ー 【事前学習】（2時間） 行事に注目して、それが予定されている時期を把握してください。 【事後学習】（2時間） 行事の意味について、行事そのものと開かれる時期の両面からとらえなおしてください。また、授業内で提示された課題を提出してください。 第4回 教室内の人間関係と特別活動 【事前学習】（2時間） 生徒達は教室内でどのようなグループを作っていたか、思い出してみてください。 【事後学習】（2時間） 生徒達がつくる集団の特質について、整理し、授業内で提示された課題を提出してください。 第5回 1年間の見通しをもった学級経営、行事 【事前学習】（2時間）		

	「強いいいじめ」が出てくるのは、何月あたりか、学校体験を思い起こしながら、考えてください。 【事後学習】（2時間） 1年間の学級経営の見通しを整理し、授業内で提示された課題を提出してください。 年間（行事）計画と生徒会の役割 【事前学習】（2時間） 生徒会は何を求められているのか、「学習指導要領」で確認してください。 【事後学習】（2時間） 実践例に見られる生徒会活動の意味を捉えなおし、授業内で提示された課題を提出してください。 学級活動指導案の実際 【事前学習】（2時間） 学級活動では、何が求められているか「学習指導要領」で、確認してください。 【事後学習】（2時間） 学級活動指導案の書き方について、自分なりに整理し、授業内で提示された課題を提出してください。 ノンエリートのキャリア形成と学校における学び、指導の意味 【事前学習】（2時間） 「ノンエリート」とは、何か考えてきてください。 【事後学習】（2時間） 学校の役割について、「ノンエリートのキャリア形成」の視点から捉えなおし、授業内で提示された課題を提出してください。 学習指導要領における総合的な学習（探究）の時間の位置づけー目標、内容、育成が目指される資質・能力 【事前学習】（2時間） 「学習指導要領」にて「総合的な学習の時間」の項目を確認してください。 【事後学習】（2時間） 「学習指導要領」にて「総合的な学習の時間」の項目を再確認しつつ、その学習法の特徴を自分なりに整理してください。また、授業内で提示された課題を提出してください。 教育課程における総合的な学習（探究）の時間ー年間計画・他教科とのかかわりー 【事前学習】（2時間） 自身の「総合的な学習の時間」の記憶を、掘り起こしていきましょう。 【事後学習】（2時間） 「総合的な学習の時間」を、「計画」の観点からとらえなおしてください。また、授業内で提示された課題を提出してください。 総合的な学習（探究）の時間における学びのプロセス 【事前学習】（2時間） 「総合的な学習の時間」の学習法について整理していきましょう。 【事後学習】（2時間） 「総合的な学習の時間」の学びに対し、授業者になにが求められるか、整理し、授業内で提示された課題を提出してください。 探究的・教科横断的な学びにおける指導、教材・教具、評価 【事前学習】（2時間） 「総合的な学習の時間」を指導する際、授業者になにが求められるか、整理してください。
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	

	第13回	【事後学習】（2時間） 「総合的な学習の時間」において、「評価」を念頭に置いたとき、何を意識すべきか整理してください。また、授業内で提示された課題を提出してください。 キャリア教育と総合的な学習（探究）の時間
	第14回	【事前学習】（2時間） 「キャリア」とは何か、自分の言葉でまとめてきてください。
	第15回	【事後学習】（2時間） 「キャリア」の学習において、何を学びたいか、何を学ぶべきか、整理してください。また、授業内で提示された課題を提出してください。 総合的な学習（探究）の時間の実際
	第16回	【事前学習】（2時間） 事前に提示される課題について、調べてきてください。
	第17回	【事後学習】（2時間） 「総合的な学習の時間」について調べ、授業内で提示された課題を提出してください。 生徒の学びと総合的な学習（探究）の時間
	第18回	【事前学習】（2時間） 自身が調べてきたことを、整理してきてください。
	第19回	【事後学習】（2時間） 「総合的な学習の時間」の学習法、指導法に照らし合わせて、自身の学びを捉えなおしてください。また、授業内で提示された課題を提出してください。 グループによるプレゼンテーション
	第20回	【事前学習】（2時間） 授業全体を通してグループで学習した内容を、学習指導案およびプレゼンテーション資料にまとめてください。
	第21回	【事後学習】（2時間） 「特別活動」「総合的な学習の時間」の学習法、指導法に照らし合わせて、自身の学びを捉えなおしてください。また、授業内で提示された課題を提出してください。
	授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 グループワーク、協議、発表 2) 情報リテラシーに関する科目 【○】 3) ICTの活用 【○】 映像、動画、パワーポイント等 4) 初年次教育 【○】
	テキスト	『中学校学習指導要領』（平成29年）、『高等学校学習指導要領』（平成30年）
	参考書	『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（平成29年）、『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』（平成30年）。それ以外の参考文献は、授業の中で適宜紹介します。
	評価方法	平常点（10点）、グループワークおよびプレゼンテーション、提出物、レポート（90%）。平常点は授業への参加意欲、「ふりかえりシート」の内容等で総合的に評価する。
	評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A） 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B） 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良（C） 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可（D） 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可（F） 60点未満：到達目標を達成していない 欠（K） — ：試験欠席・レポート未提出・出席不足
	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
	履修上の注意	グループ討議を行う予定です。積極的な参加をお願いします。
	オフィスアワー	授業終了後に質問を受付けます。
	課題に対するフィードバック方法	授業内にて、適宜、応答していく。

講義科目名称： 教育方法・教育課程

授業コード： 5535A

英文科目名称： Curriculum and Instructional Methodology

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3年次	2単位 (2-0)	教職科目
担当教員			
城間 祥子			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC301		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	①授業のテーマ ・教育の方法及び教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身につける。 ・教育課程の意義と教育課程の編成について理解する。 ②到達目標 1) 教育方法の基礎的理論と実践について理解している。 2) 学習指導案を作成することができる。 3) 授業を行う上で必要な技術の基礎を身に付けている。 4) 学校教育における教育課程の意義を理解している。 5) 学習指導要領とはどのようなものかを説明できる。 6) 各学校で教育課程を編成する意義や方法を理解している。 7) カリキュラム・マネジメントの意義や方法について理解している。		
授業の概要	第1～8回は、授業を構成する様々な要素について理解を深め、学習指導案の作成や模擬授業を通して、授業づくりの基本的な技術を身に付ける。 第9～15回は、カリキュラム・デザイナーとしての教師に必要な基礎的な知識を身につける。教育課程及び学習指導要領について理解を深めるとともに、各学校で生徒や地域の実態を踏まえて教育課程を編成する意義や方法について具体例を通して学ぶ。		
授業計画	第1回 オリエンテーション、授業の構成要素 シラバスの確認、授業の構要素、教え方がうまい人/へたな人ってどんな人？ 【事前学習】シラバスを読む、よい授業の条件を考える (2時間) 【事後学習】振り返りレポートの提出 (2時間) 第2回 学習指導案の書き方 授業ができるまで (ADDIEモデル)、学習指導案の構成と種類、授業展開 【事前学習】面白いと思う学習指導案を探し出す (2時間) 【事後学習】振り返りレポートの提出 (2時間) 第3回 学習目標と学習評価 学習目標と評価規準の書き方、学習目標に応じた評価方法の選択 【事前学習】既存の学習指導案の学習目標と評価方法の対応関係を分析する (2時間) 【事後学習】振り返りレポートの提出 (2時間) 第4回 個別最適な学びと協働的な学び 学習形態と教育環境 【事前学習】既存の学習指導案から効果的な学習活動を収集する (2時間) 【事後学習】振り返りレポートの提出 (2時間) 第5回 学習指導案の作成 学習指導案を作成する 【事前学習】学習指導案の下書き (2時間) 【事後学習】振り返りレポートの提出、学習指導案を完成させる (2時間) 第6回 学習指導案の発表 作成した学習指導案のプレゼン 【事前学習】発表の準備 (2時間) 【事後学習】振り返りレポートの提出、学習指導案を修正する (2時間) 第7回 「授業研究」と授業づくりの考え方 学び続ける教員像、「授業研究」とは、模擬授業とリフレクション (ロールプレイ) 【事前学習】授業研究に関する資料を読む (2時間) 【事後学習】振り返りレポートの提出 (2時間) 第8回 模擬授業の実施 模擬授業とリフレクションの実践 【事前学習】模擬授業の準備 (2時間) 【事後学習】振り返りレポートの提出 (2時間) 第9回 教育課程と学習指導要領 教育課程の基準としての学習指導要領、学習指導要領の種類と構成、教育課程とは何か 【事前学習】学習指導要領の全体像を把握する (2時間) 【事後学習】振り返りレポートの提出 (2時間) 第10回 新学習指導要領のポイント 学習指導要領ができるまで、社会に開かれた教育課程、資質・能力の育成、主体的・対話的で深い学び 【事前学習】学習指導要領の総則を読む (2時間) 【事後学習】振り返りレポートの提出 (2時間) 第11回 カリキュラムのマネジメントと評価 カリキュラム・マネジメントの定義、必要性、重視されるようになった背景、3つの側面 【事前学習】カリキュラムマネジメントについて資料を読む (2時間) 【事後学習】振り返りレポートの提出 (2時間) 第12回 教育課程編成の原理		

	系統主義に基づく教育課程の編成、経験主義に基づく教育課程の編成、総合的・横断的な学習の カリキュラム 【事前学習】事例のビデオを視聴する（2時間） 【事後学習】振り返りレポートの提出（2時間） 第13回 教育課程と学力 学力調査、OECDのキー・コンピテンシー、学力の3要素、入試と学力 【事前学習】PISAの問題を解く（2時間） 【事後学習】振り返りレポートの提出（2時間） 第14回 学習指導要領の変遷 試案、系統主義、ゆとり教育、生きる力の育成、資質・能力の育成 【事前学習】年表の作成（2時間） 【事後学習】振り返りレポートの提出（2時間） 第15回 まとめ、期末試験 教育課程及び授業づくりについての理解を確認する 【事前学習】期末試験に向けてこれまでの内容を復習する（2時間） 【事後学習】振り返りレポートの提出（2時間） 第16回 なし
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 ☐ 2) 情報リテラシーに関する科目 ☐ 3) ICTの活用 ☐ 4) 初年次教育 ☐
テキスト	中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
参考書	田中耕治（編）『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房、2007年
評価方法	振り返りレポート（30%）、学習指導案の作成と発表（15%）、模擬授業（15%）、期末試験（40%）
評価基準	成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良（C）70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可（D）60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可（F）60点未満：到達目標を達成していない 欠（K）—：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【D P 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	特に無し
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける。
課題に対するフィードバック方法	課題及び振り返りレポート等は授業内でその都度返却する。

講義科目名称： 教育におけるICT活用

授業コード：

英文科目名称： ICT in Education

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期（集中講義）	2年次	1単位（0-1）	教職科目（必修科目）
担当教員			
仲地 範禮			
授業形態：演習	ナンバリング：TTC207		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 到達目標は以下のとおり。 1） 社会的背景や急速な技術の発展を踏まえ、情報通信技術の活用の意義とあり方を理解している。 2） 個別最適な学びと協働的な学びや、主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業改善における情報通信技術の活用意義を理解している。 3） 情報通信技術を効果的に活用した事例を理解している。 4） 情報活用通信技術を活用する基礎的な指導法を身に付けている。 5） 遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用法を理解している。 6） 統合型校務支援システム等、情報通信技術を活用した校務の推進について理解している。 7） 情報モラルを含む情報活用能力の育成に必要な基礎的な指導法を理解している。		
授業の概要	上記のテーマや到達目標を達成するため、具体的な事例として、ICT教育環境整備ハンドブックの例を参考に、一斉授業、個別最適な学びの授業、遠隔・オンライン授業におけるICTの有用性や意義を理解する。加えて、統合型校務支援システムを代表とする校務の情報化の必要性や情報モラルについても具体的な事例をもとに理解を進める。授業の前半は講師による解説をおこない、後半は学生への演習・議論・課題作成などを行う。		
授業計画	第1回 教育におけるICTの活用とこれまでの経緯と現在の状況について 全9回の講義計画について概要を説明するとともに、課題や評価の方法についても確認する。教育におけるICTの活用について、これまでの経緯と現在の状況に触れ理解を深める。 【事前学習】 授業におけるICT活用について、自分の経験を整理しておいてください（授業の中で質問します）。文科省のHPより現在のICT活用の状況について調べておいてください。（1時間） 【事後学習】 集中講義形式のため、授業の中で最終回後に記載する。（1時間） 第2回 一斉学習におけるICT活用の意義と実践について（演習を含む） 一斉学習におけるICT活用の意義と実践例を紹介し、題材をもとに演習をすることで、ICTの一斉学習における活用の効果と課題についての理解を深める。 【事前学習】 プレゼンテーションソフト2種類（1つはMicrosoft PowerPoint、1つはオンラインで利用可能のもの）を事前に利用できるように学習しておいてください。（1時間） 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。（1時間） 第3回 個別最適な学びと主体的・対話的で深い学びに対するICT活用の意義と実践について（演習を含む） 個別最適な学びや主体的・対話的で深い学びについて理解を深める。加えて、ICT活用との関係を考察し、演習を通して意義に対する理解を深める。 【事前学習】 文部科学省HPより、「個別最適な学び」と「主体的・対話的で深い学び」の意義と意味を調べておいてください。「令和の日本型学校教育の構築を目指して」の内容を確認しておいてください。（1時間） 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。（1時間） 第4回 遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの利用について（演習を含む） 遠隔教育の実践例を紹介し、Zoom等で擬似的に遠隔授業の演習を行う。演習後、コロナ禍におけるオンライン学習や本講義における実践を元に、遠隔・オンライン教育について議論することで、その意義や課題について考察する。 【事前学習】 「隠岐島前教育魅力化プロジェクト」と小学校での遠隔・オンライン教育の事例を1つ調べておいてください。（1時間） 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。（1時間） 第5回 統合型校務支援システム及び校務におけるICT活用の意義とその実践について（演習を含4回） 統合型校務支援システムや校務の情報化について理解を深め、演習にて統合型校務支援システムや校務におけるICT活用の実践を行う。その後、議論にて校務におけるICT活用の意義や課題についての理解を深める。 【事前学習】 前回の授業で通知します。（1時間） 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。（1時間） 第6回 情報モラルを含む情報活用能力の育成のための指導法について 統合型校務支援システムや校務の情報化について理解を深め、演習にて統合型校務支援システムや校務におけるICT活用の実践を行う。その後、議論にて校務におけるICT活用の意義や課題についての理解を深める。 【事前学習】 前回の授業で通知します。（1時間） 【事後学習】		

	第7回 集中講義形式のため、最終回後に記載する。(1時間) 情報通信技術を活用した具体的な教材の利用及び作成について これまで学んだ内容を基に、テーマを決め、具体的な教材の利用方法を考案又は教材の作成を行う。作成を通して情報通信技術を利用した教材に対する理解を深める。 【事前学習】 前回の授業で通知します。(1時間) 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。(1時間) 第8回 情報通信技術を活用した具体的な指導法について 前時間で作成した教材の発表を行う。教材内容の共有を行うことでICT活用の意義や効果について理解を深める。 【事前学習】 前回の授業で通知します。(1時間) 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。(1時間) 第9回 定期試験 これまでの講義で学んだ事をチェックする。形式はCBT (Computer Based Test) で行う。 【事前学習】 これまでの内容の復習をしてください。(1時間)
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 ☐ 2) 情報リテラシーに関する科目 ☐ 3) ICTの活用 ☐ 4) 初年次教育 ☐ 5) 実践的PBL ☐
テキスト	講師が授業中に配布する資料をテキストとして用いる。
参考書	各回の授業で提示する。 I C T教育環境整備ハンドブック (一般社団法人日本教育情報化振興会) 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月公示 文部科学省)
評価方法	課題 (10%)、授業態度及び授業への参加度 (50%) 定期試験 (30%)、レポート (10%)
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【D P 1～4との関連】 【】1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【】2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 【○】3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 【】4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	コンピュータ教室で実施予定です。P Cを利用することを前提としているので、タッチタイピング(キーボードを見ないで入力する)が可能である必要があります。又、課題等を返却する際にメールを利用します。P Cからデータを送付できるメールアドレスを取得する必要があります。
オフィスアワー	質問については、次のメールアドレスまで nakachin@open.ed.jp
課題に対するフィードバック方法	課題については配布・フィードバックを電子メールにて行います。レポートについては基本的にデジタルデータで提出ですが、紙で提出(一部)の場合は提出物をスキャンしてデジタルデータにした後、メールにて返却します。

講義科目名称： 生徒・進路指導論

授業コード：

英文科目名称： Guidance

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年	2単位 (2-0)	教職科目
担当教員			
岡本 泰弘			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC204		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】生徒指導の基礎的な理論、指導・支援の実践について学び、多様な個性をもつ生徒に対応することができる。 【到達目標】生徒指導の基礎について理解するとともに、学校現場でのいじめや不登校、暴力行為、少年非行、発達障害、キャリア教育等の生徒指導上の課題に対して、効果的な指導・支援の在り方を考え、主体的に授業に臨むことができる。		
授業の概要	生徒指導は、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと児童生徒が自主的・主体的に成長や発達を支える教育活動である。現在、学校教育現場では、いじめや不登校、暴力行為、少年非行、発達障害、精神疾患等、様々な教育課題が山積している。また、進路指導及びキャリア教育の必要性も年々高まってきている。この授業では、これらの生徒指導の課題の背景と対応等の即応的・継続的（リアクティブ）生徒指導を学んでいくとともに、常態的・先行的（プロアクティブ）生徒指導について考えていく。実際の教育現場を想定し、アクティブ・ラーニングの観点から、指導・支援の在り方をペアワークや集団討論、DVD視聴後の討論、ロールプレイングやロールレタリング等を通して実践的な指導力の基礎を養っていくこととする。		
授業計画	第1回	オリエンテーション ー生徒指導とはー ※エゴグラムの実施 授業の学び方と生徒指導に携わる者としての自己の気づきを図る。 【事前学習】小・中・高等学校における生徒指導について振り返り、授業に参加する。（2時間） 【事後学習】今後学んでいく生徒指導について振り返って学習する。（2時間）	
	第2回	※遠隔授業の場合:ZoomまたはTeamsを利用予定 生徒指導の基礎①<生徒指導の定義と目的> 生徒指導の基礎として、生徒指導の定義、目的、実践上の視点、関連性について学習する。 【事前学習】生徒指導の定義と目的について調べてくる。（2時間） 【事後学習】生徒指導の定義、目的、実践上の視点、関連性について振り返って学習する。（2時間）	
	第3回	※遠隔授業の場合:ZoomまたはTeamsを利用予定 生徒指導の基礎②<生徒指導の構造> 生徒指導の基礎として、生徒指導の構造[発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導（課題未然防止教育、課題早期発見対応）、困難課題対応的生徒指導について学習する。 【事前学習】生徒指導の構造について調べてくる。（2時間） 【事後学習】生徒指導の構造[発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導（課題未然防止教育、課題早期発見対応）、困難課題対応的生徒指導について振り返って学習する。（2時間）	
	第4回	※遠隔授業の場合:ZoomまたはTeamsを利用予定 生徒指導の基礎③<生徒指導の方法> 生徒指導の基礎として、生徒指導の方法（児童生徒理解、集団指導と個別指導、ガイダンスとカウンセリング、チーム支援による組織的対応、生徒指導の基盤、生徒指導の取組上の留意点）について学習する。 【事前学習】生徒指導の方法について調べてくる。（2時間） 【事後学習】生徒指導の方法（児童生徒理解、集団指導と個別指導、ガイダンスとカウンセリング、チーム支援による組織的対応、生徒指導の基盤、生徒指導の取組上の留意点）について振り返って学習する。（2時間）	
	第5回	※遠隔授業の場合:ZoomまたはTeamsを利用予定 生徒指導と教育課程 生徒指導と教育課程（教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動）との関連について学習する。 【事前学習】生徒指導と教育課程について調べてくる。（2時間） 【事後学習】生徒指導と教育課程（教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動）との関連について振り返って学習する。（2時間）	
	第6回	※遠隔授業の場合:ZoomまたはTeamsを利用予定 生徒指導と教育相談 生徒指導と教育相談（基本的な考え方、全校的展開、カウンセリング技法）について学習する。 【事前学習】生徒指導と教育相談について調べてくる。（2時間） 【事後学習】生徒指導と教育相談（基本的な考え方、全校的展開、カウンセリング技法）について振り返って学習する。（2時間） ※遠隔授業の場合:ZoomまたはTeamsを利用予定	

第 7 回	いじめについてー理論と指導の実際ー ※ロールレタリングの実施 いじめについて理論（現状、定義、重大事態等）や指導の実際（発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導（課題未然防止教育、課題早期発見対応）、困難課題対応的生徒指導）から学習する。 【事前学習】いじめとは何か、いじめの現状について調べてくる。（2時間） 【事後学習】いじめについて理論（現状、定義、重大事態等）や指導の実際（発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導（課題未然防止教育、課題早期発見対応）、困難課題対応的生徒指導）から振り返って学習する。（2時間）
第 8 回	※遠隔授業の場合:ZoomまたはTeamsを利用予定 不登校についてー理論と指導の実際ー ※集団討議 不登校について理論（現状、定義、支援目標等）や支援の実際（発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導（課題未然防止教育、課題早期発見対応）、困難課題対応的生徒指導）から学習する。 【事前学習】不登校の現状について調べてくる。（2時間） 【事後学習】不登校について理論（現状、定義、支援目標等）や支援の実際（発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導（課題未然防止教育、課題早期発見対応）、困難課題対応的生徒指導）から振り返って学習する。（2時間）
第 9 回	※遠隔授業の場合:ZoomまたはTeamsを利用予定 暴力行為と少年非行についてー理論と指導の実際ー 暴力行為と少年非行について理論（現状、定義、視点等）や指導の実際（発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導（課題未然防止教育、課題早期発見対応）、困難課題対応的生徒指導）から学習する。 【事前学習】暴力行為と少年非行の現状について調べてくる。（2時間） 【事後学習】暴力行為と少年非行について理論（現状、定義、視点等）や指導の実際（発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導（課題未然防止教育、課題早期発見対応）、困難課題対応的生徒指導）から振り返って学習する。（2時間）
第 1 0 回	※遠隔授業の場合:ZoomまたはTeamsを利用予定 発達障害と精神疾患についてー理論と指導の実際ー ※発達障害疑似体験 発達障害と精神疾患について理論（現状、定義、課題等）や支援の実際（基本的構え、体制等）から学習する。 【事前学習】発達障害と精神疾患の現状について調べてくる。（2時間） 【事後学習】発達障害と精神疾患について理論（現状、定義、課題等）や支援の実際（基本的構え、体制等）から振り返って学習する。（2時間）
第 1 1 回	※遠隔授業の場合:ZoomまたはTeamsを利用予定 児童虐待と自殺についてー理論と指導の実際ー 児童虐待と自殺について理論（現状、定義等）や支援の実際（基本的構え、体制等）から学習する。 【事前学習】発達障害と精神疾患の現状について調べてくる。（2時間） 【事後学習】発達障害と精神疾患について理論（現状、定義、課題等）や指導の実際（発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導（課題未然防止教育、課題早期発見対応）、困難課題対応的生徒指導）から振り返って学習する。（2時間）
第 1 2 回	※遠隔授業の場合:ZoomまたはTeamsを利用予定 インターネット・携帯電話に関する問題、性に関する課題 ※集団討議 インターネット・携帯電話に関する問題、性に関する課題について学習する。 【事前学習】インターネット・携帯電話に関する問題、性に関する課題について調べてくる。（2時間） 【事後学習】インターネット・携帯電話に関する問題、性に関する課題について振り返って学習する。（2時間）
第 1 3 回	※遠隔授業の場合:ZoomまたはTeamsを利用予定 生徒指導における進路指導・キャリア教育① ※集団討議 進路指導について理論（定義、諸活動等）や指導の実際から学習する。 【事前学習】小・中・高等学校に受けた進路指導について振り返って考えてくる。（2時間） 【事後学習】進路指導について理論（定義、諸活動等）や指導の実際について振り返って学習する。（2時間）
第 1 4 回	※遠隔授業の場合:ZoomまたはTeamsを利用予定 生徒指導における進路指導・キャリア教育② キャリア教育について理論（定義、育成すべき能力等）や指導の実際から学習する。 【事前学習】小・中・高等学校に受けたキャリア教育について振り返って考えてくる。（2時間） 【事後学習】キャリア教育について理論（定義、育成すべき能力等）や指導の実際について振り返って学習する。（2時間）
第 1 5 回	※遠隔授業の場合:ZoomまたはTeamsを利用予定 チーム学校による生徒指導体制 チーム学校における危機管理体制、法制度等の運用体制について学習する。 【事前学習】小・中・高等学校に受けたキャリア教育について振り返って考えてくる。（2時間）

	【事後学習】チーム学校における危機管理体制、法制度等の運用体制について振り返って学習する。(2時間) ※遠隔授業の場合:ZoomまたはTeamsを利用予定 第16回 定期試験
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【 】 3) ICTの活用 【 】 4) 初年次教育 【 】 5) 実践的PBL 【 】
テキスト	生徒指導提要(令和4年12月 文部科学省)
参考書	特になし
評価方法	評価は、期末テスト 50%、授業内レポート 50%とし、総合的にみて行う。3分の1以上を欠席した場合は、単位の取得は認められない。 ※遠隔授業の場合、定期試験をレポートに変更して実施する。
評価基準	成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足 ※遠隔授業の場合、評価方法を変更するため、詳細については講義内で説明。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	教師になったことを想定し、講義の臨んでください。 ※遠隔授業の場合、ZoomやTeams等で提示する資料や課題を必ず確認すること。Zoomにて授業を実施する回は、授業開始時にはスマートフォンやPCで参加できる準備をすること。
オフィスアワー	授業や課題に関する問い合わせは、随時メールで行ってください。 メールアドレス okamoto@edu.u-ryukyu.ac.jp
課題に対するフィードバック方法	次回の授業で返却する。

講義科目名称： 教育相談の理論と方法

授業コード： 5534A

英文科目名称： Theories and Methods of Educational Counselling

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3年	2単位 (2-0)	教職科目
担当教員			
柳田 正豪			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC306		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	スクールカウンセラーの役割・必要性に加え、教育相談を進める際の基礎的知識についても理解を深める。カウンセリングマインドを活かし教育相談に従事するスキルを学ぶ。		
授業の概要	現在、学校の教育現場では、実にさまざまな問題が存在する。学力低下や学業不振に限らず、不登校、いじめ、うつ、自殺があり、さらには家庭内暴力等の社会的問題もある。こうした問題に対しての技術や知識を学ぶことは、現代の教員には必須であり、同時にそれはカウンセリングを学ぶことにもある。また青年期にみられる発達障害や精神疾患も学び、その症状・原因・対策を学ぶ。基本的なカウンセリングスキルを学び、お互いにカウンセリングのロールプレイも実践する。教員を目指す者は、生徒の心理的課題や教育的課題を捉えた上で、自らの課題に気づき、教育者としての資質を高める。		
授業計画	第1回	教育相談における学校カウンセリングとは。自分自身を理解しよう。 オリエンテーション。この授業で求めている事や成績の付け方について説明をする。 現在の教育現場で起きている問題点を提示しながら、学校に求められているのが何か一緒に考える。そのうえで、教育相談と学校カウンセリングとは何かを学ぶ。 授業後半では、自分自身への理解を深めるための心理テストを実施する。 「課題：学校カウンセリングとは何か」をリサーチしてレポートを提出する。 以下のキーワードをレポートに含めること。 1. 学校カウンセリングの存在理由 2. 学校カウンセリングのメリット・デメリット 3. 海外の学校カウンセリングとの相違点 4. 調べて学んだ自身の感想・ふりかえり 注：参考文献にはネットも利用していいが、信頼性の高い記事をみつけること。 【事前学習】シラバスの確認 1.5時間 【事後学習】配布資料を読む 3.5時間	
	第2回	教育相談における学校カウンセリングの必要性 教育相談における学校カウンセリングの機能そしてニーズについて学ぶ。 従来の学習指導や生徒指導ではいま学校で起きている様々な問題に対応できなくなってきた。そこでこれらの対応について、学級担任ができること、カウンセラーができることについて分けて考えてみる。 教科書1-16。 配布資料。 【事前学習】配布資料と教科書を読む 2時間 【事後学習】クイズのための復習 2時間	
	第3回	学校教育相談とカウンセリングの役割 教育相談における学校カウンセリングの役割について学ぶ。 前回の授業では、学校教育相談と学校カウンセリングの必要性について学んだ。この授業では、担任による学校教育相談のメリットとデメリット、学校カウンセラーのメリットとデメリットについて深く学んでいく。 教科書1-16。 配布資料。	
	第4回	【事前学習】配布資料と教科書を読む 2時間 【事後学習】クイズのための復習 2時間 学校における不適応行動とその理解および対応（1）発達障害 不適応行動とその行動及び対応の第1回目は発達障害について学ぶ。 今回は自閉症スペクトラム障害と注意欠如多動性障害に焦点をあてる。自閉症スペクトラム障害では、さらに自閉症とアスペルガー症候群の違いについて学ぶ。授業内では事例を出し、対応策を皆で考えてもらう。 教科書44-60。	
	第5回	【事前学習】配布資料を読む 2時間 【事後学習】クイズのための復習 2時間 学校における不適応行動とその理解および対応（2）気分障害・不安障害 第2回目は気分障害と不安障害について学ぶ。 不安障害のうつ病に焦点をあてる。現在の中学生や高校生にはうつ病にかかる生徒も少なくはない。正しいうつ病に関する知識を身につける。授業内では事例を出し、対応策を皆で考えてもらう。	

	教科書44－60。
第 6 回	【事前学習】配布資料を読む 2時間 【事後学習】クイズのための復習 2時間 学校における不適応行動とその理解および対応（3）いじめ・不登校・虐待・非行 不登校といじめについて学ぶ。 前半では不登校がおきる原因やメカニズムについて学び、不登校のタイプ、不登校の生徒に対する支援策などについても学ぶ。後半ではいじめの構造・成立についての理解し、いじめへの介入策について学ぶ。
第 7 回	教科書61－91。 【事前学習】配布資料を読む 2時間 【事後学習】クイズのための復習 2時間 カウンセリングスキルの体験学習（1）共感スキル カウンセリングの体験学習1回目では、言語スキルの「受容」、「繰り返し」、「言い換え」の3スキルを学んでもらう。まずスキルの使い方を学び、その後ペアで3スキルを使ったロールプレーを行う。
第 8 回	教科書17－30。 配布資料。 【事前学習】配布資料を読む 2時間 【事後学習】クイズのための復習 2時間 カウンセリングスキルの体験学習（2）信頼関係づくり カウンセリングの体験学習2回目では、言語スキルの「支持」と「質問」の2スキルを学んでもらう。その他に非言語スキルの意味とその解釈について深く学んでもらう。これらの言語と非言語スキルは、話し相手との信頼関係づくりに大きく影響するので、ロールプレーを繰り返しなが ら、覚えてもらう。
第 9 回	教科書17－30。 配布資料。 【事前学習】配布資料を読む 2時間 【事後学習】クイズのための復習 2時間 こころの問題の種類と教育相談（1）性的マイノリティについて（LGBT等） セクシャリティの意味やマジョリティとマイノリティの概念を理解してもらう。また性別違和とトランスジェンダー違いについても理解を深めてもらう。事例を出しながら、学校における支援と課題についても学んでもらう。
第 1 0 回	配布資料。 【事前学習】配布資料を読む 2時間 【事後学習】クイズのための復習 2時間 こころの問題の種類と教育相談（2）なぞの声が聞こえる（統合失調症） 精神疾患の中でも深刻な精神病である統合失調症について学ぶ。発症は早くて中学生から始まる ことがあり、早期発見・介入が必要であるとうことを学んでもらう。
第 1 1 回	配布資料。 【事前学習】配布資料を読む 2時間 【事後学習】クイズのための復習 2時間 教育相談と事例研究：外部の教育相談関係機関とのつながり 学校は他機関との連携を常に意識しないといけない。生徒は3年後には卒業し進学していくので、 進学先から情報提供も求められれば、情報を開示しなければならない。進学校との連携の重要性 を学ぶ。また進学校だけでなく、地域に根付いた医療機関や支援団体の存在についても学ぶ。
第 1 2 回	教科書184－199。 【事前学習】配布資料を読む 2時間 【事後学習】クイズのための復習 2時間 教育相談と事例研究：組織的な取り組み 学級で起こった問題に対し、学級担任だけで対応するには限度がある。そこで学年主任や保健 室、またはスクールカウンセラー等を活用した組織的介入について理解を深めてもらう。校内だ けでなく、先週学んだ外部の教育相談関係機関との取り組みも応用する。
第 1 3 回	教科書169－182。 【事前学習】配布資料を読む 2時間 【事後学習】クイズのための復習 2時間 保護者に対する援助 親・保護者の役割について学ぶ。 保護者と信頼関係を築くことで家庭内・学校内での諸問題に対し、保護者から援助を得られるこ とを学ぶ。親子関係のシステム論も学ぶ。
	教科書151－168。
	【事前学習】配布資料を読む 2時間

	第14回 【事後学習】クイズのための復習 2時間 心理検査とその利用 多くの心理検査は臨床心理士やスクールカウンセラーでしか扱えない。テスト結果の解釈には心理学・臨床心理学の知識が必要だからである。しかし、学校教員でも実施できる心理テストがあるので、その使い方と導入方法について学ぶ。 配布資料。 第15回 【事前学習】配布資料を読む 2時間 【事後学習】クイズのための復習 2時間 全体の振り返り 今学期学んだ単元を最初から復習する。毎回授業で出したクイズの回答を確認しながら、期末試験に出る範囲について触れる。 第16回 【事前学習】配布資料を読む 2時間 【事後学習】期末試験の復習 2時間 期末試験 今までのまとめ。
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【○】 3) ICTの活用 【○】 4) 初年次教育 【○】 5) 実践的PBL 【○】
テキスト	「学校教育相談」 一丸 藤太郎 MINERVA教職講座 ミネルヴァ書房 2002年
参考書	「実践ハンドブック 学校カウンセリングの考え方・進め方」松原達哉 教育開発研究所 1993年
評価方法	授業への参加度（10%）、毎回のクイズ（30%）、期末試験（40%）、課題（20%）
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良（C）70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可（D）60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可（F）60点未満：到達目標を達成していない 欠（K）－：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	主体的な参加を高く評価します。
オフィスアワー	柳田研究室
課題に対するフィードバック方法	課題及び授業内の小テストは授業内で解答し、その翌週に返却する。

講義科目名称： 教育実習事前事後研究

授業コード： 5520A

英文科目名称： Pre, Post-Teaching Practicum Seminar

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	4年	1単位(0-2)	教職科目
担当教員			
大城 直人・照屋 信治			
授業形態：演習	ナンバリング：TTC401		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】事前研究では、教育実習を行い、教育活動に参画する自覚を高める。事後研究では、自身の課題を省察する。 【達成目標】１．教員の職務と学校現場の状況を理解する。２．教育実習の目的を明確にし、実習目標をたてて実習に臨むことができる。３．これまで学んだ知識を統合し、実践に移すことができる。４．学校現場の諸問題を考察し、積極的に議論に参加できる。５．実習校と連絡を取り、実習への打ち合わせや授業計画等について責任を持って対応できる。		
授業の概要	(事前研究)教育実習の目的・意義について理解を深め、教育実習に対する心構えと実習教師としての基本的な知識や指導性を確実に身につける。また、教員の職務内容や教員の職務内容や教育現場に対する理解を図り実習への備えとする。授業は本講義担当者の講義、受講生同士のディスカッションによって構成される。実習に対する自己の目標を明確にし、実習への意欲を高めるものとした。 (事後研究)教育実習期間中の「中間報告」及び終了後の「事後報告」を通じて、学校種(中学校・高等学校)、学習環境(地域差、学習母集団)等の違いによる教育の多面性を共有し、多様な教育課題を見付けるとともに、教育実習、介護等体験や教職科目において学んだ全ての事柄をあらためて整理、統合、検討、評価する。また、個人発表やグループ活動、ディスカッション等の講義から、その教育課題、教育の本質について議論を深めていく。それらの活動は、教育現場の体験の成果をより明確に今後の教育活動に位置づけ、現場体験に基づいた「教育観・教師観」を培うものである。		
授業計画	第1回 講義の概要説明、実習に向けて、個別面談 スケジュールの確認、本講義で学ぶことの概要説明を行う。各自の教育実習に向けての取り組み状況を確認する。 【事前学習】教育実習に向けて取り組んでいる現状を確認し、質問事項等を考えておく。(30分) 【事後学習】今後の授業計画を踏まえ、教育実習に向けた各自のスケジュールを組み立てる。(30分) 第2回 学校訪問について、教育実習レポート、教員採用試験について 学校訪問の際の身だしなみ、確認すべき事項、心構え、等について確認する。 【事前学習】学校訪問に関する質問事項をまとめておく。(15分) 【事後学習】教育実習レポートを読み、課題レポートに取り組む。(45分) 第3回 実習前に準備すべきこと 教材研究、アクティビティ、授業の準備、学級・HRの状況、指導教員との連絡等、実習前に準備することを確認する。 【事前学習】教育実習に関する質問事項をまとめておく。(15分) 【事後学習】配布した資料に目を通し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(45分) 第4回 講話：高等学校の現場から 高等学校で英語を担当する教員をゲストスピーカーに招いて、教育実習の心構えを講義していただく。 【事前学習】高等学校における教員の仕事に関する質問事項をまとめておく。(15分) 【事後学習】講話の内容を踏まえ、課題(レポート)に取り組む。(45分) 第5回 講話：中学校の現場から 中学校で英語を担当する教員をゲストスピーカーに招いて、教育実習の心構えを講義していただく。 【事前学習】中学校における教員の仕事に関する質問事項をまとめておく。(15分) 【事後学習】講話の内容を踏まえ、課題(レポート)に取り組む。(45分) 第6回 教育実習についての基礎的な知識の確認 テキスト『教育実習の常識』を用いて、担当教員からのレクチャー(特に生徒指導、HR経営に関して)。 【事前学習】テキストの指定された箇所を読み、質疑応答に備え質問を考えておく。(30分) 【事後学習】授業で触れた重要な留意点を振り返り、見直しておく。(30分) 第7回 教育実習についての基礎的な知識の確認 テキスト『教育実習の常識』を用いて、受講者にミニレクチャーを行ってもらう。 【事前学習】発表担当箇所を重点的にテキストを読み、発表の準備を行う。(45分) 【事後学習】授業で触れた重要な留意点を振り返り、見直しておく。(15分) 第8回 教育実習中間報告会① 全ての受講者が教育実習期間の土曜日に行う。全員参加であり、実習生が直面している諸問題について共有し、意見交換を行う(受講者が12人であれば3コマ、15人であれば4コマ行う)。 【事前学習】報告する内容、共有を図りたい内容について考え、まとめておく。(45分) 【事後学習】他の実習生の状況やフィードバックを踏まえ、教育実習の充実に役立てる。(15分) 第9回 教育実習中間報告会② 全ての受講者が教育実習期間の土曜日に行う。全員参加であり、実習生が直面している諸問題について共有し、意見交換を行う。 【事前学習】報告する内容、共有を図りたい内容について考え、まとめておく。(45分) 【事後学習】他の実習生の状況やフィードバックを踏まえ、教育実習の充実に役立てる。(15分) 第10回 教育実習中間報告会③ 全ての受講者が教育実習期間の土曜日に行う。全員参加であり、実習生が直面している諸問題に		

	ついて共有し、意見交換を行う。 【事前学習】報告する内容、共有を図りたい内容について考え、まとめておく。(45分) 【事後学習】他の実習生の状況やフィードバックを踏まえ、教育実習の充実に役立てる。(15分) 第11回 教育実習反省会① 全ての受講者が教育実習終了後に土曜日などを利用し行う。全員参加し、教育実習の経験を反省し吟味する。1人30分ほど(受講者が12人であれば3コマ、15人であれば4コマ行う)。 【事前学習】教育実習を振り返り、発表の観点に沿って報告する内容を考え、まとめておく。(45分) 【事後学習】コメントやフィードバックを踏まえ、今後の教育実践に活かす。(15分) 第12回 教育実習反省会② 全ての受講者が教育実習終了後に土曜日などを利用し行う。全員参加し、教育実習の経験を反省し吟味する。1人30分ほど。 【事前学習】教育実習を振り返り、発表の観点に沿って報告する内容を考え、まとめておく。(45分) 【事後学習】コメントやフィードバックを踏まえ、今後の教育実践に活かす。(15分) 第13回 教育実習反省会③ 全ての受講者が教育実習終了後に土曜日などを利用し行う。全員参加し、教育実習の経験を反省し吟味する。1人30分ほど。 【事前学習】教育実習を振り返り、発表の観点に沿って報告する内容を考え、まとめておく。(45分) 【事後学習】コメントやフィードバックを踏まえ、今後の教育実践に活かす。(15分) 第14回 教育実習レポートの作成 教育実習の内容を、クラス内でシェアし、その後、レポートにすることで何度も反芻してもらう。教育実習という貴重な体験をやりっぱなしの経験に終わらせることなく、経験の意味を吟味することに努める。 【事前学習】教育実習を振り返り、レポート作成要領に沿って、レポート執筆に取り組む。(45分) 【事後学習】それぞれのレポートに目を通し、教育実習で得た学びを再度振り返り、学びの深化を図る。(15分) 第15回 教育実習成果報告会 1・2・3年生の教職履修性に向けた教育実習成果報告会を行うことにより、自身の教育実習の意味を再確認する。 【事前学習】報告会の配布資料作成に加え、発表要領を踏まえ、報告会の準備に取り組む。(45分) 【事後学習】コメントやフィードバックを踏まえ、教育実習を振り返り、総括を行う。(15分)
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 ☐ 2) 情報リテラシーに関する科目 ☐ 3) ICTの活用 ☐ 4) 初年次教育 ☐ 5) 実践的PBL ☐
テキスト	教育実習を考える会 編 『新編 教育実習の常識』(第8版)倉丘書林 2005
参考書	特になし
評価方法	1. 授業態度・授業への参加度(40%) 2. 発表・討議参加(30%) 3. レポート・提出物(30%)
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 ・ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ・ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ・ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ・ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1 教師としての資質が問われる体験学習であり、教職科目の必修科目であることに照らして、出席状況等を充分加味する。全回出席するのが基本だが、やむを得ず欠席する時は確実に欠席届けを提出する。 2 「事前・中間・事後指導」の履修を持って教育実習研究は完結する。よって前期から後期にまたがる期間行うことになる。
オフィスアワー	照屋：水曜日の昼食時間～3限目 照屋研究室(北研4-3) 大城：水曜日の3限目 大城研究室(西研4-5)
課題に対するフィードバック方法	課題はコメントを付し、授業中に返却する。

講義科目名称： 教育実習（中学）

授業コード： 5518A

英文科目名称： Senior High School Teaching Practicum

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	4 年	4単位	教職科目
担当教員			
照屋 信治・大城 直人			
授業形態：実習	ナンバリング：TTC402		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 中学校において教育実習を行う。教職課程での学びを中学校の現場で確認し、自身の課題を発見する。 【到達目標】 ①教科指導ができる。（教科や指導に関する知識・理解・技能，教材研究と授業準備） ②生徒指導ができる。（生徒理解と実態把握，学級経営，課外活動への関心） ③意欲を持って実習に臨み，態度に示すことができる。（勤怠状況，実習への意欲，学級事務等の実務能力等）
授業の概要	教育実習の意義は、実習校の指導教諭の下で、実際の教育活動を体験することにより、教員としての心構えや教育活動に必要な基本的な知識・技術を多方面に学び、教育の本質についての認識を深めることである。実習は、中学校において9月に実施され、実習期間は原則的に3週間(120時間)である。但し、二学期制の学校の場合、9月以前に実施されることがある。中学校教育実習「5単位」は、実習校において120時間の実習を行うとともに、大学において、科目「教育実習事前事後研究」(1単位)を履修し、所定の要件を満たしてはじめて認定されるものである。
授業計画	1. 教育実習の内容 学校教育において学ぶべき教育活動は広範囲に及ぶため、その全てを限られた実習期間で体験し理解することは困難である。従って、特に、次の領域について理解を深めることを目指す。 (1) 学校組織 (2) 生徒の実態把握 (3) 生徒指導 (4) 教科指導 (5) 「道徳」の指導 (6) 学級経営 (7) 特別活動 (8) 諸表簿の扱い 2. 教育実習の形態 教育実習は、主に、次の3つの形態に分類され、相互に関連しながら段階的に実習が進められる。 (1) 観察実習：生徒の学習活動や生活活動、教師の教育活動を観察し、学校教育の実態を総合的に理解する。 (2) 参加実習：実習指導教諭の指導の下、様々な教育活動に参加して現場の実際を学ぶ。 (3) 教壇実習：実習指導教諭の指導の下、教科指導を分担し、自ら教壇に立って授業を実践する。原則として、教壇実習は10時間以上とする。 3. 授業参観 授業参観に際しては、漫然と参観するのではなく、研究的な姿勢をもって参観し、必要に応じて留意点を記録し、自身の教壇実習に生かせるよう心がける。特に、次の点に注目しながら観察を行う。 (1) 学習環境はどのように整備されているか (2) どのような指導形態がとられているか (3) 教師の発問 (4) 生徒の発言、応答への対応 4. 教科指導 授業観察、参観を経て、教壇実習を行い、教科指導の実際について体験的に学びを深める。指導に際しては、指導案を作成し、指導教諭の指導・助言を仰ぎながら、望ましい指導のあり方について理解を深める。 【教科指導上の心得】 (1) 学習指導要領及び教科書を熟読し、学年・単元の目標を理解する。 (2) 授業（教壇実習）を行う場合、指導案を作成し、前日までに指導教諭に提出して指導を受ける。 (3) 授業終了後は、『実習記録簿』に内容を記録し、速やかに指導教諭の指導を受ける。 (4) 授業の開始・終了時間を遵守する。 5. 生徒指導 生徒指導は全ての教育活動の基本とも言える。多様な教育活動の機会を通して生徒理解に努め、指導教諭の指導・助言を仰ぎながら、望ましい指導のあり方を体験的に習得する。 【生徒指導上の心得】 (1) 実習校の生徒指導方針に従う (2) 生徒の名前をできるだけ早く覚える (3) 言動に注意し、生徒に対しては指導者としての態度を堅持する (4) 生徒に対しては公平に接する (5) 生徒の指導に際しては、体罰を加えてはならない (6) 個人情報の扱いに注意を払う

	(7) 生徒の健康・安全に気を配り、事故やけがが発生した場合は、速やかに実習校の教職員と連携する。
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 ☐ 2) 情報リテラシーに関する科目 ☐ 3) ICTの活用 ☐ 4) 初年次教育 ☐ 5) 実践的PBL ☐
テキスト	1. 実習校使用の英語教科書 2. 実習校使用教科書のマニュアル 3. その他(学校要覧、学校経営計画等)
参考書	教育実習を考える会 編『新編 教育実習の常識』 蒼丘書林、2000年
評価方法	1. 実習校指導教員の評価 (70%) 2. 実習レポート (20%) 3. 研究授業 (10%)
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1. 指定された「教職科目」を履修済みあること。 2. 教育実習に関するガイダンス・オリエンテーションに出席すること。 3. その他、必要な要件を満たしていること。
オフィスアワー	照屋：水曜日の昼食時間～3限目 照屋研究室（北研4－3） 大城：水曜日の3限目 大城研究室（西研4－5）
課題に対するフィードバック方法	教育実習期間の土曜日に行う中間報告会で助言を与える。事後報告会での報告へ口頭でフィードバックする。

講義科目名称： 教育実習（高校）

授業コード：

英文科目名称： Senior High School Teaching Practicum

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	4 年	2単位	教職科目
担当教員			
照屋 信治・大城 直人			
授業形態：実習	ナンバリング：TTC403		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 高等学校において教育実習を行う。教職課程での学びを高等学校で確認し、自身の課題を発見する。 【到達目標】 ①教科指導ができる。（教科や指導に関する知識・理解・技能，教材研究と授業準備） ②生徒指導ができる。（生徒理解と実態把握，学級経営，課外活動への関心） ③意欲を持って実習に臨み態度に示すことができる。（勤怠状況，実習への意欲，学級事務等の実務能力）
授業の概要	教育実習の意義は、実習校の指導教諭の下で、実際の教育活動を体験することにより、教員としての心構えや教育活動に必要な基本的な知識・技術を多面的に学び、教育の本質についての認識を深めることにある。実習は、6月に高等学校において実施され、実習期間は原則的に2週間（80時間）である。高等学校教育実習「3単位」は、実習校において80時間の実習を行うとともに、大学における実習のためのガイダンスやオリエンテーションに出席し、科目「教育実習研究・事前事後指導」（1単位）を履修し、所定の要件を満たしてはじめて認定されるものである。
授業計画	1. 教育実習の内容 学校教育において学ぶべき教育活動は広範囲に及ぶため、その全てを限られた実習期間で体験し理解することは困難である。従って、特に、次の領域について理解を深めることを目指す。 (1) 学校組織 (2) 生徒の実態把握 (3) 生徒指導 (4) 教科指導 (5) 学級経営 (6) 特別活動 (7) 諸表簿の扱い 2. 教育実習の形態 教育実習は、主に、次の3つの形態に分類され、相互に関連しながら段階的に実習が進められる。 (1) 観察実習：生徒の学習活動や生活活動、教師の教育活動を観察し、学校教育の実態を総合的に理解する。 (2) 参加実習：実習指導教諭の指導の下、様々な教育活動に参加して現場の実際を学ぶ。 (3) 教壇実習：実習指導教諭の指導の下、教科指導を分担し、自ら教壇に立って授業を実践する。原則として、教壇実習は7時間以上とする。 3. 授業参観 授業参観に際しては、漫然と参観するのではなく、研究的な姿勢をもって参観し、必要に応じて留意点を記録し、自身の教壇実習に生かせるよう心がける。特に、次の点に注目しながら観察を行う。 (1) 学習環境はどのように整備されているか (2) どのような指導形態がとられているか (3) 教師の発問 (4) 生徒の発言、応答への対応 4. 教科指導 授業観察、参観を経て、教壇実習を行い、教科指導の実際について体験的に学びを深める。指導に際しては、指導案を作成し、指導教諭の指導・助言を仰ぎながら、望ましい指導のあり方について理解を深める。 【教科指導上の心得】 (1) 学習指導要領及び教科書を熟読し、学年・単元の目標を理解する。 (2) 授業（教壇実習）を行う場合、指導案を作成し、前日までに指導教諭に提出して指導を受ける。 (3) 授業終了後は、『実習記録簿』に内容を記録し、速やかに指導教諭の指導を受ける。 (4) 授業の開始・終了時間を遵守する。 5. 生徒指導 生徒指導は全ての教育活動の基本とも言える。多様な教育活動の機会を通して生徒理解に努め、指導教諭の指導・助言を仰ぎながら、望ましい指導のあり方を体験的に習得する。 【生徒指導上の心得】 (1) 実習校の生徒指導方針に従う (2) 生徒の名前をできるだけ早く覚える (3) 言動に注意し、生徒に対しては指導者としての態度を堅持する (4) 生徒に対しては公平に接する (5) 生徒の指導に際しては、体罰を加えてはならない (6) 個人情報の扱いに注意を払う (7) 生徒の健康・安全に気を配り、事故やけがが発生した場合は、速やかに実習校の教職員と連携する。

授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 ☐ 2) 情報リテラシーに関する科目 ☐ 3) ICTの活用 ☐ 4) 初年次教育 ☐ 5) 実践的PBL ☐
テキスト	1. 実習校使用の英語教科書 2. 実習校使用教科書のマニュアル 3. その他（学校要覧、学校経営計画等）
参考書	教育実習を考える会編『新編 教育実習の常識』蒼丘書林、2000年
評価方法	1. 実習校指導教員の評価（70%） 2. 実習レポート（20%） 3. 研究授業（10%）
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良（C）70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可（D）60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可（F）60点未満：到達目標を達成していない 欠（K）－：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1. 指定された「教職科目」を履修済であること。 2. 教育実習に関するガイダンス・オリエンテーションに出席すること。 3. その他、必要な要件をみたしていること。
オフィスアワー	照屋：水曜日の昼食時間～3限目 照屋研究室（北研4－3） 大城：水曜日の3限目 大城研究室（西研4－5）
課題に対するフィードバック方法	教育実習期間の中間報告会や、教育実習終了後の事後報告会で助言を与える。レポートなどはコメントを付し返却する。

講義科目名称： 教職実践演習（中・高）

授業コード：

英文科目名称： Student Teaching(Junior/Senior High School)

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	4年	2単位(0-2)	教職科目
担当教員			
大城 直人・照屋 信治			
授業形態：演習	ナンバリング：TTC404		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 教職の授業を通して得た学習知と教育実習、介護等体験、学習支援ボランティア等で得た指導力や実践力、そして経験知を統合し、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づける。 【到達目標】①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を高める。②社会性や対人関係能力を高める。③生徒理解を深め、学級経営の知識や技術を得る。④教科内容等の指導力を高める。		
授業の概要	4年間で学んだことを有機的に統合し、教師としての使命感や責任感、そして教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力を有する教員としての資質形成を目指す。また、多様な教育課題やその展望についてグループ討議やロールプレイを通して考察する中で、教師に求められる社会性や対人能力を培っていききたい。自己の取り組むべき課題を認識し、必要な知識や技能等を補いながら、教壇実践を円滑にスタートさせることができるよう、本学教員と外部教育関係者として連携して演習を実施する。		
授業計画	第1回 講義の概要説明、自己の課題の確認（履修カルテを利用した個別面談） 授業の概要説明。教師に求められている4つの事項を確認する（①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項）。授業時間外に時間を設定し個別面談を行う。 【事前学習】教職課程におけるこれまでの学びを振り返り、自らの強み・弱みについて考える。（1h） 【事後学習】教師に求められる4つの資質に照らし、自らの課題を明らかにする。（1h） 第2回 学校フィールドワーク 2日間の学校フィールドワークの概要説明、グループ分け。実習小学校に関する事前学習。 【事前学習】小学校の現状について、各自の興味関心に照らし、情報収集を行う。（1h） 【事後学習】学校フィールドワークに向けて、準備を進める。（1h） 第3回 学校フィールドワーク実習①観察実習、授業支援 学校フィールドワークでは、西原町内の小学校で観察実習、授業支援、学習支援などを行う。2日のうち、初日は観察実習、授業支援を行う。 【事前学習】学校フィールドワークの心得を確認し、フィールドワークに備える。（1h） 【事後学習】初日の体験を振り返り、記録簿作成に取り組む。（1h） 第4回 学校フィールドワーク実習②小学校外国語活動の授業支援、学習支援 2日目は特に、小学校外国語活動（あるいは小学校英語）を観察し、授業に関わることで、中学校入学前の英語教育の状況を把握する。 【事前学習】小学校外国語活動について現況を調べ、フィールドワークに備える。（1h） 【事後学習】小学校外国語活動の体験を振り返り、記録簿作成に取り組む。（1h） 第5回 学校フィールドワークの報告会 学校フィールドワークの状況、そこで学んだことを、グループ内で共有し、小学校と中学校の接続・連携について考察を深める。 【事前学習】2日間の体験を振り返り、報告会での発表に向けた準備を行う。（1h） 【事後学習】体験を共有し、コメントやフィードバックを踏まえ、小中連携の意義について理解を深める。（1h） 第6回 生徒理解に関する授業（教育相談について） 沖縄県総合教育センター指導主事をゲストスピーカーとして招き、教育相談、生徒指導についての現状をお話いただく。 【事前学習】教育相談、生徒指導に関して、質問事項を準備しておく。（1h） 【事後学習】講話の内容を振り返り、課題（感想レポート）に取り組む。（1h） 第7回 教科に関する授業（沖縄県の英語教育について） 沖縄県総合教育センター指導主事をゲストスピーカーとして招き、沖縄県の英語教育の課題についてお話いただく。 【事前学習】沖縄県の英語教育の現状に関して、質問事項を準備しておく。（1h） 【事後学習】講話の内容を振り返り、課題（感想レポート）に取り組む。（1h） 第8回 教科に関する授業（アクティビティ研究） 教職課程履修中の3年生に対して、教育実習で行った英語授業のアクティビティの発表会を行う。 【事前学習】アクティビティ集の作成を行い、報告会の発表に向けた準備を行う。（1h） 【事後学習】質問、コメント、フィードバックを踏まえ、英語の指導法についてさらに探求を深める。（1h） 第9回 教科に関する授業（アクティビティ研究の検討会） 教職課程履修中の3年生とともに、英語授業におけるアクティビティの有効活用について話し合いを行う。 【事前学習】アクティビティ集の作成を行い、報告会の発表に向けた準備を行う。（1h） 【事後学習】質問、コメント、フィードバックを踏まえ、英語の指導法についてさらに探求を深める。（1h） 第10回 教科に関する授業（研究授業） 特定のテーマを定めて研究授業を行う。教職課程履修中の3年生に生徒役をお願いし、その後、具体的な検討を行う。		

	【事前学習】研究授業を振り返り、模擬授業に向けた準備を行う。(1h) 【事後学習】質問、コメント、フィードバックを踏まえ、英語の指導法についてさらに探求を深める。(1h) 第11回 道徳に関する授業 エンカウンターを用いた道徳授業の研究授業を行い、その後にグループ討議を行う。 【事前学習】配布資料に目を通し、内容理解を深めるとともに、質問事項を考えておく。(1h) 第12回 特別活動に関する授業 特別活動に関する実践報告論文を輪読し、討議する。全国生活指導研究会の実践報告論文をテキストにする。 【事前学習】配布資料に目を通し、内容理解を深めるとともに、質問事項を考えておく。(1h) 第13回 学級経営・生徒理解に関する授業 学級経営・生徒理解に関する実践報告論文を輪読し、討議する。全国生活指導研究会の実践報告論文をテキストにする。 【事前学習】配布資料に目を通し、内容理解を深めるとともに、質問事項を考えておく。(1h) 第14回 教職課程修了の報告会に向けての討議 教職課程修了の報告会に向けての事前の報告会、討議、準備を行う。 【事前学習】教職課程におけるこれまでの学びを振り返り、総括を行う。(1h) 第15回 教職課程修了の報告会 教育実習を中心の4年間の教職課程で学んだことを、1・2・3年の教職課程履修者の前で報告してもらう。 【事前学習】報告会に向けて、発表要領を踏まえ、準備を進める。(1h) 【事後学習】コメントやフィードバックを踏まえ、教職課程における学びを振り返り、学びの昇華に努める。(1h) 授業外学修時間60時間を必要とする。概ね、各授業の事前学習・事後学習に各1時間(合計30時間)、アクティビティ報告集・学校フィールドワーク報告集・教育実習報告会報告集の作成に各10時間(合計30時間)を想定している。 第16回 なし
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【○】 3) ICTの活用 【○】 4) 初年次教育 【○】 5) 実践的PBL 【○】
テキスト	授業内容に応じて資料を配布
参考書	適宜提供 文部科学省『中学校学習指導要領』
評価方法	1. 授業態度・授業への参加度(40%) 2. 発表・討議参加(30%) 3. レポート・提出物(20%) 4. 個別面談(10%)
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可(D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可(F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠(K) —：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 … 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること … 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること … 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること … 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	照屋：月曜日・火曜日の昼休み 照屋研究室(北研4-3) 大城：月曜日・水曜日の3限目 大城研究室(西研4-5)
課題に対するフィードバック方法	課題は授業中にコメントを付し返却する。プレゼン、発表などの課題は授業中に口頭でフィードバックする。